



嘉麻市教育委員会
点検・評価報告書
(令和3年度事業分)

令和4年9月

目 次

1. 教育委員会点検・評価の概要について	1
(1) はじめに	1
(2) 点検・評価の導入の目的	1
(3) 点検・評価する対象	1
(4) 点検・評価の方法	2
(5) 結果の取扱い	2
(6) 嘉麻市教育行政の基本理念	2
(7) 嘉麻市教育振興基本計画	3
「第5次嘉麻市教育アクションプラン（令和3年度～令和5年度）」	
2. 嘉麻市教育委員会について	4
(1) 教育委員会の活動	4
(2) 教育委員会の会議開催状況	4
(3) 教育委員会の学校訪問実施状況	7
3. 全体評価結果	8
4. 事業別評価結果	9
■主要施策1 少人数指導等による学力向上	12
■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実	15
■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進	32
■主要施策4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進	45
■主要施策5 体力及び運動能力向上の推進	53
■主要施策6 人権尊重精神を育成する教育の推進	59
■主要施策7 市民文化の創造	63
5. 点検・評価委員の意見	70
《資料》	
・嘉麻市教育委員会点検評価実施要綱	80

1. 教育委員会点検・評価の概要について

(1) はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条及び嘉麻市教育基本条例第7条の規定に基づき、平成20年4月から、嘉麻市教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しています。

この報告書は、令和3年度の嘉麻市教育委員会に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、点検評価委員の意見を付して、報告するものです。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）
（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

(2) 点検・評価の導入の目的

教育委員会制度は、首長から独立した合議制の教育委員会が決定する教育行政に関する基本的方針のもと、教育長及び事務局が広範かつ専門的な具体の教育行政事務を執行するものです。

このため、事前に教育委員会が立てた基本方針にそって、具体的な教育行政が執行されているかどうかについて、教育委員会自らが事後にチェックする必要があり、教育委員会が地域住民に対する説明責任を果たし、その活動を充実させることが目的です。

(3) 点検・評価する対象

第5次嘉麻市教育アクションプラン（令和3年度～令和5年度嘉麻市教育振興基本計画）の事業を対象とします。

(4) 点検・評価の方法

事業ごとに目標達成度の観点から、それぞれの所管課が自己評価を行い、点検・評価の客観性を確保するために第三者評価を行いました。

第三者評価については、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るため、学校教育及び生涯学習の各分野の准教授2名に委嘱し、全58事業から抽出された19事業について、各所管課との間でヒアリングを実施し、各事業の達成度、成果及び効果等について、専門的な知見に基づく意見及び助言等をいただきました。

《点検評価委員名簿》

	選 出 区 分	氏 名	役 職 等
1	学識経験を有する者	原 田 直 樹	福岡県立大学看護学部 准教授
2	学識経験を有する者	農 中 至	鹿児島大学法文学部 准教授

(5) 結果の取扱い

この点検・評価においては、事業ごとに3段階【A：期待以上（高い）、B：概ね期待どおり（基準）、C：課題あり（低い）】で評価し、評価の高い事業については引き続き実施し、評価の低い事業については課題や問題の解決を行うと同時に、事業の見直しについて検討していく予定です。

(6) 嘉麻市教育行政の基本理念

嘉麻市教育委員会では、嘉麻市教育基本条例第2条の基本理念に基づき、本市の教育行政を実施していきます。

嘉麻市教育基本条例（抜粋） （基本理念）

第2条 教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び地域社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な市民の育成を期して行われなければならない。

2 市民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。

3 家庭、地域住民及び市は、前2項に定める基本理念の実現に努めるものとする。

(7) 嘉麻市教育振興基本計画

「第5次嘉麻市教育アクションプラン（令和3年度～令和5年度）」

嘉麻市教育委員会では、教育行政の基本理念に基づき、本市における教育振興のための施策に関し基本的な事項を定めた「第5次嘉麻市教育アクションプラン」を策定し、学校教育、社会教育、文化・芸術の各分野における7つの教育施策を柱として、その実現に向けた施策を推進しました。

主要施策

1. 少人数指導（1学級を30人以下の児童又は生徒で編成する等の指導形態をいう。）等による学力向上
2. 個性又は能力を育成する学校教育の充実
3. 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
4. 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進
5. 体力及び運動能力向上の推進
6. 人権尊重精神を育成する教育の推進
7. 市民文化の創造

この7つの施策に基づく事業を対象に、点検・評価を実施しました。

※ 第5次嘉麻市教育アクションプラン（令和3年度～令和5年度 嘉麻市教育振興基本計画）は、嘉麻市ホームページにてご覧いただけます。

「嘉麻市ホームページ」 <http://www.city.kama.lg.jp>

◎情報を探す➡キーワードでさがす

キーワード「教育アクションプラン」と入力してください

2. 嘉麻市教育委員会について

(1) 教育委員会の活動

教育委員会は教育長を含む5名の委員で構成され、会議の実施については、原則、定例会が毎月1回、臨時会は必要に応じて開催し、教育行政に関する重要事項等を適時適切に慎重に審議しています。

また、嘉麻市教育委員会定例学校訪問実施要項に基づき、定例学校訪問を実施しています。小中学校を訪問することで、学校教育現場の状況を確認することができ、教育委員の立場から要望など意見を述べました。

《嘉麻市教育委員会委員名簿》

令和4年9月現在

職名	氏名	任期
教育長	木本 寛昭	令和3年11月9日～令和6年11月8日
教育長 職務代理者	佐竹 正利	令和3年7月4日～令和7年7月3日
委員	辻田 喜美	令和2年8月29日～令和6年8月28日
委員	犬丸 隆行	令和元年7月4日～令和5年7月3日
委員	松岡 瞳子	令和4年7月4日～令和8年7月3日

(2) 教育委員会の会議開催状況

◆令和3年度教育委員会開催実績

- ・定例会 12回
- ・臨時会 1回 計 13回

◆令和3年度教育委員会の会議における議案

番号	議案	開催日
1	嘉麻市立学校施設の開放に関する条例施行規則及び嘉麻市社会体育施設条例施行規則の一部を改正する規則について	8/3
2	嘉麻市立学校開放施設使用料の減免に関する規程について	8/3
3	嘉麻市社会教育施設等使用料の減免に関する規程について	8/3
4	嘉麻市社会教育関係団体事業補助金交付規程について	8/3

5	嘉麻市スポーツ協会補助金交付規程について	8/3
6	嘉麻市スポーツ大会実施補助金交付規程について	8/3
7	嘉麻市立碓井中学校区義務教育学校名称の選定結果について	8/3
8	嘉麻市立稲築中学校区義務教育学校名称の選定結果について	8/3
9	嘉麻市立稲築東中学校区義務教育学校名称の選定結果について	8/3
10	嘉麻市立図書館管理運営規則の一部を改正する規則について	9/3
11	嘉麻市立織田廣喜美術館条例施行規則の一部を改正する規則について	9/3
12	嘉麻市学校運営協議会規則について	10/5
13	嘉麻市立学校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則について	10/5
14	嘉麻市学校給食調理業務委託実施計画（案）について	2/8
15	嘉麻市奨学資金条例施行規則の一部を改正する規則について	2/8

◆令和3年度教育委員会の会議における協議

番号	協 議	開催日
1	嘉麻市立図書館及び嘉麻市立織田廣喜美術館外施設の管理運営業務等に関する指定管理者制度導入について	4/6

◆令和3年度教育委員会の会議における報告

番号	報 告	開催日
1	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	毎月
2	嘉麻市奨学資金貸付審議会委員の委嘱に関する臨時代理について	5/6
3	嘉麻市奨学資金貸付審議会の諮問及び答申に関する臨時代理について	5/6
4	嘉麻市学校評議員の委嘱に関する臨時代理について	5/6
5	嘉麻市学校関係者評価委員について	5/6
6	嘉麻市小中一貫教育本部会議設置要綱の一部を改正する要綱について	5/6
7	令和2年度嘉麻市立中学校卒業生の進路報告について	5/6
8	嘉麻市立小・中学校修学旅行感染症対策支援事業補助金交付規程の一部を改正する告示について	6/8
9	嘉麻市立義務教育学校開校準備委員会委員の委嘱・任命に関する臨時代理について	6/8
10	嘉麻市公民館運営審議会委員の任命に関する臨時代理について	6/8

11	嘉麻市立図書館協議会委員の委嘱・任命に関する臨時代理について	6/8
12	嘉麻市小中一貫教育本部会議について	6/8
13	令和3年6月嘉麻市議会上程議案等について	6/8
14	嘉麻市公の施設指定管理者審査委員会の諮問に関する臨時代理について	7/6
15	令和3年6月嘉麻市議会上程議案等について	7/6
16	嘉麻市立学校開放施設使用料の減免に関する要綱を廃止する要綱について	8/3
17	嘉麻市社会教育施設等使用料の減免に関する要綱を廃止する要綱について	8/3
18	嘉麻市社会教育関係団体事業補助金交付要綱を廃止する要綱について	8/3
19	嘉麻市体育協会補助金等交付要綱等を廃止する要綱について	8/3
20	嘉麻市社会体育施設事前申請に関する要綱の全部を改正する要綱について	8/3
21	嘉麻市公の施設指定管理者審査委員会の諮問に関する臨時代理について	8/3
22	嘉麻市教育委員会点検・評価報告（令和2年度事業分）について	8/3
23	標準学力検査（フクト）の結果について	8/3
24	小中一貫教育について	9/3
25	嘉麻市教育委員会点検・評価報告書（令和2年度事業分）について	9/3
26	令和3年9月嘉麻市議会上程議案等について	9/3
27	令和4年嘉麻市成人式の概要について	10/5
28	嘉麻市立小学校、中学校及び義務教育学校スクールバス運行管理業務委託プロポーザル選定委員会設置要綱について	11/2
29	嘉麻市スポーツ推進委員の委嘱について	11/2
30	嘉麻市公の施設指定管理者候補者の選定について（嘉麻市立織田廣喜美術館、嘉麻市立図書館、嘉麻市碓井郷土館及び嘉麻市碓井平和祈念館）	11/2
31	嘉麻市公の施設指定管理者候補者の選定について（嘉麻市サルビアパーク）	11/2
32	嘉麻市公の施設指定管理者候補者の選定について（嘉麻市温水プールスイミングプラザなつき）	11/2
33	全国学力・学習状況調査について	11/2
34	嘉麻市学校給食民間委託実施計画（案）についてのパブリックコメント実施について	12/7

35	令和3年12月嘉麻市議会上程議案等について	12/7
36	令和4年度嘉麻市立小中学校の入学式・卒業証書授与式等の期日について	12/7
37	嘉麻市立小学校、中学校及び義務教育学校英語教育語学指導員派遣業務委託プロポーザル選定委員会設置要綱について	1/7
38	嘉麻市義務教育学校整備状況について	1/7
39	嘉麻市解放子ども会事業補助金交付規程の一部を改正する告示について	2/8
40	第3次嘉麻市子ども読書活動推進計画について	2/8
41	嘉麻市社会体育施設予約システムの利用に関する規程について	3/4
42	嘉麻市立中学校修学旅行感染症対策支援事業補助金交付規程の一部を改正する告示について	3/4
43	令和5年成人式について	3/4
44	令和4年3月嘉麻市議会上程議案等について	3/4
45	令和4年度教職員の人事（内示）について	3/25

(3) 教育委員会の学校訪問実施状況

◆定例学校訪問（3校）

嘉麻市教育委員会が各学校における学校経営の諸課題を把握するとともに、改善に向けた方向性について、協議及び所要の指導・支援を行うことにより、学校力を向上させる取組です。

実施日：令和3年10月13日（水） 下山田小学校
令和3年11月 5日（金） 稲築西小学校
令和3年11月 9日（火） 嘉穂中学校

3. 全体評価結果

評価の方法は目標達成度や取組における成果や効果から、総合的に評価を行いました。また、令和3年度に実施した全58事業から抽出された19事業について、評価委員によるヒアリングを行い、専門的な知見に基づく意見及び助言等をいただき、今後の方向性及び令和4年度の課題につきましても、あわせて検討しました。

事務局の自己評価と評価委員の意見を踏まえた教育委員会としての評価結果は、期待以上（高い）のA評価が7事業（12.1%）、概ね期待どおり（基準）のB評価が50事業（86.2%）、課題あり（低い）のC評価が1事業（1.7%）となりました。

当該年度におきましては、新型コロナウイルス感染拡大による事業の中止及び縮小等により、目標値に対する実績値は低い評価となっておりますが、感染拡大防止対策への新たな取組等による事業の効率化等が図られたことで、概ね期待どおりの評価結果となりました。

今後も、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を継続しつつ、目標値達成に向けた事業の効率化、課題解決に向けた新たな取組が必要であると考えます。

《評価結果》

	教育委員会評価（全58事業）
A：期待以上（高い）	7事業（12.1%）
B：概ね期待どおり（基準）	50事業（86.2%）
C：課題あり（低い）	1事業（1.7%）

4. 事業別評価結果

■主要施策1 少人数指導等による学力向上

施策の内容	番号	事業名	自己評価			外部評価事業	記載ページ
			A	B	C		
(1) 確かな学力向上のための取組の推進	1	少人数指導推進事業		○			12
	2	学力検証事業		○		◎	13
	3	嘉麻市学力向上強化プロジェクト事業		○		◎	14

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

施策の内容	番号	事業名	自己評価			外部評価事業	記載ページ
			A	B	C		
(1) 子どものニーズに応じる教育の充実	4	特別支援教育推進事業		○			15
(2) 社会の変化に対応する教育の充実	5	英語コミュニケーション能力の育成事業		○			16
	6	情報教育推進事業	○				17
	7	小・中学校情報教育施設整備事業		○			18
(3) 信頼される教員の確保と研修の充実	8	嘉麻市教育研究所研修推進事業		○			19
(4) 安心して学べる学校づくりの推進	9	学校防犯体制整備事業		○		◎	20
	10	通学対策事業	○				21
(5) 学校施設整備の推進	11	学校施設維持管理業務事業		○			22
	12	大隈城山校維持管理事業	○				23
	13	義務教育学校施設整備事業		○			24
	14	義務教育学校開校準備事業		○			25
(6) 地域に開かれた学校づくりの推進	15	コミュニティ・スクール推進事業		○			26
	16	学校関係者評価事業		○			27
	17	学校開放事務事業		○			28
(7) 小中一貫教育への取組	18	小中一貫教育推進事業		○			29
(8) 教育の機会均等の促進	19	就学援助事業		○			30
	20	奨学金事業		○		◎	31

■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

施策の内容	番号	事業名	自己評価			外部評価事業	記載ページ
			A	B	C		
(1) 道徳性と自立心を養う心の教育の充実	21	道徳教育推進事業		○			32
	22	キャリア教育推進事業		○			33
(2) 健やかな心身をはぐくむ健康教育の充実	23	学校保健事業		○			34
	24	学校給食運営事業		○			35
	25	学校給食費算定及び収納事業		○			36
(3) 家庭・地域・学校における読書活動推進	26	読書活動推進事業		○			37
(4) いじめ・不登校問題等の解決に向けた体制の充実	27	適応指導教室（れすとぴあ）推進事業	○			◎	38
	28	不登校対策支援事業		○		◎	39
(5) 家庭・地域の教育力を高める支援体制の充実	29	郷土を愛する子どもの育成事業		○			40
	30	家庭教育支援事業		○			41
	31	青少年健全育成事業		○		◎	42
(6) 男女共同参画教育の推進	32	学校における男女共同参画推進事業		○			43
	33	地域社会における男女共同参画推進事業			○		44

■主要施策4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

施策の内容	番号	事業名	自己評価			外部評価事業	記載ページ
			A	B	C		
(1) 生涯学習関係機関、団体との連携・協力体制の整備	34	社会教育関係団体等育成事業		○		◎	45
	35	社会教育施設整備事業		○			46
(2) 学習機会の提供及び学習成果の活用の促進	36	生涯学習推進事業		○		◎	47
	37	公立公民館・自治公民館連携強化推進事業		○		◎	48
	38	公民館活動活性化推進事業		○		◎	49
(3) 図書館の利用促進	39	図書館施設管理運営事業		○			50
	40	読書活動推進事業		○		◎	51
	41	図書館ボランティア養成及び活動支援事業		○			52

■主要施策5 体力及び運動能力向上の推進

施策の内容	番号	事業名	自己評価			外部評価事業	記載ページ
			A	B	C		
(1) スポーツによる地域の活性化	42	スポーツコミュニティ創造事業	○			◎	53
	43	スポーツ大会誘致・スポーツ大会支援事業		○			54
(2) スポーツ環境の整備	44	スポーツ環境創成事業		○			55
	45	社会体育施設管理運営事業		○			56
(3) 生涯スポーツの推進	46	プロジェクトK事業		○			57
(4) 競技スポーツの推進	47	競技スポーツ推進事業		○		◎	58

■主要施策6 人権尊重精神を育成する教育の推進

施策の内容	番号	事業名	自己評価			外部評価事業	記載ページ
			A	B	C		
(1) 学校教育における人権・同和教育の推進及び支援	48	人権・同和教育推進事業		○			59
(2) 社会教育における人権・同和教育の推進及び支援	49	人権・同和教育推進事業		○			60
	50	人権・同和教育推進少年団体育成事業		○		◎	61
	51	人権・同和教育推進団体育成事業		○		◎	62

■主要施策7 市民文化の創造

施策の内容	番号	事業名	自己評価			外部評価事業	記載ページ
			A	B	C		
(1) 美術に関する創造的活動の推進	52	文化芸術活動推進事業		○		◎	63
	53	美術館運営管理事業		○			64
	54	企画展事業		○			65
	55	美術教育普及事業		○		◎	66
(2) 文化財の保護・継承・活用	56	郷土の歴史文化を守る事業		○			67
	57	郷土の歴史文化を伝える事業	○				68
	58	郷土の歴史文化拠点施設活用事業	○			◎	69

点検評価表の見方

主要施策				
施策の内容				
事業名 (予算/決算)		【事業番号】 事業名 (担当課:担当係) (予算: 千円 / 決算: 千円)		
事業の概要	事業の目的	※アクションプラン策定時における事業実施の目的		
	事業の内容	※目的を達成するための事業内容		
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	※アクションプランにおける令和3年度目標値		
	実績値 (目標値との比較)	※令和3年度の目標値に対する実績値		
	重点課題	※令和3年度の課題		
	課題への取組と成果	※重点課題への対応を含め、 令和3年度に取組んだ事業内容とその成果及び効果		
次年度重点課題		※次年度に重点的に取り組む課題		
令和3年度 自己評価	【評価の指標】		A	B
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)			
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)			
	※評価の指標 A:期待以上(高い) B:概ね期待どおり(基準) C:課題あり(低い)			
評価の根拠	※取組の総合的な成果や効果、及び成果として見えにくい部分(コロナ対策への新たな取組み等)を補足するなどし、教育委員会評価に繋がった評価根拠			
教育委員会評価		今回	(前回)	—

※評価の指標 A:期待以上(高い) B:概ね期待どおり(基準) C:課題あり(低い)

主要施策	1	少人数指導等による学力の向上		
施策の内容	1	確かな学力向上のための取組の推進		
事業名 (予算/決算)	[1] 少人数指導推進事業 (学校教育課：教務係) (予算：133,748千円 / 決算：133,202千円)			
事業の概要	事業の目的	小中学校全学年において、1学級を30人以下の少人数指導を実施し、児童生徒の状況を把握しながら、より個に応じた指導を行うことによって、生徒指導の充実、学力を向上させるよう努めます。		
	事業の内容	基準にもとづく少人数指導特別教員を配置し、小中学校の少人数指導を推進しています。		
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	基準にもとづく職員の配置 (小学校15名、中学校6名)		
	実績値 (目標値との比較)	基準にもとづく職員配置 (小学校15名、中学校5名)		
	重点課題	基準にもとづく職員の配置		
	課題への取組と成果	退職教員への声かけだけでなく、ティーチフォーアジアといった人材派遣会社へ派遣依頼をかけるなど、少人数指導を行うために教員確保に取り組みました。 その結果、学力向上に向けた習熟度別指導を嘉麻市内全ての学校で実施することができました。また、令和3年度の全国学力学習状況調査において、4つの小・中学校で標準化得点100を超える結果を出すことができました。また、小学校の12月の標準学力調査では、6月の県学力調査よりも6つの小学校で改善が見られました。		
次年度重点課題	基準にもとづく職員の100%配置			
令和3年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○	
	※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)			
評価の根拠	全国的に教員不足が常態化している中で、小学校で15名配置することができましたが、中学校では1名の配置ができませんでした。 そうした状況にあっても、習熟度別指導を全小中学校で実施できました。 全国学力・学習状況調査では、嘉麻市の目標値には達していませんが、4つの小・中学校で標準化得点100を超える結果を出すことができました。また、小学校の12月の標準学力調査では、6月の県学力調査よりも改善を図ることができた学校が6小学校ありました。			
教育委員会評価	今回	B	前回	—

※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)

主要施策	1	少人数指導等による学力向上		
施策の内容	1	確かな学力向上のための取組の推進		
事業名 (予算/決算)	[2] 学力検証事業 (学校教育課: 教務係) (予算: 6, 756千円 / 決算: 6, 167千円)			
事業の概要	事業の目的	児童生徒の実態や学力を把握・分析し、課題を明らかにして学校内の組織的な取組の改善を図り、自ら学び考えるなどの確かな学力を育む教育を推進します。		
	事業の内容	各種学力検査を実施し、早期に学力向上策の評価・改善を行い、授業改善等を促進します。		
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	標準学力調査 (小学校): 50ポイント 標準学力分析検査 (中学校): 50ポイント		
	実績値 (目標値との比較)	標準学力調査 (小学校): 47ポイント (▲3ポイント) 標準学力分析検査 (中学校): 46.0ポイント (▲4ポイント)		
	重点課題	各種学力検査等をもとに学力向上策の評価・改善を行い、学力低位層に視点を当てた授業改善を促進させます。		
	課題への取組と成果	これまでの標準学力検査(NRT)をもとに取組を行ってきた結果、基礎基本の学力の定着を一定程度図ることができてきました。 今年度より導入した標準学力調査は全国学力・学習状況調査や福岡県学力実態調査に類似した問題であり、基礎基本だけでなく応用問題も含まれていることから、今後の更なる学力の向上を図ることが期待できます。 また、調査結果が年度内に戻ってきますので、結果にもとづいて、個に応じた補充学習に取り組むことができ、学習内容の定着を図ることができました。このように、調査結果をもとに学力低位層への個別の学習指導や学習支援を意識した取組を行うことができました。		
次年度重点課題	学力低位層に対する個に応じた学習指導及び学習支援の充実。			
令和3年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○	
	※評価の指標 A: 期待以上 (高い) B: 概ね期待どおり (基準) C: 課題あり (低い)			
評価の根拠	<p>コロナ禍にある現在、臨時休校や学級閉鎖、自宅待機による影響もあり、小中学校の学力検査では、目標値を達成させることはできませんでした。しかし、全ての学校において、年間3回の検証改善を100%実施することができ、取組の検証改善を図ることができています。</p> <p>その結果、福岡県学力調査結果では令和2年度と比較して、小学5年生において学力低位層を国語科で6.2ポイント、算数科で3.8ポイント減少させることができました。</p>			
教育委員会評価	今回	B	前回	—

※評価の指標 A: 期待以上 (高い) B: 概ね期待どおり (基準) C: 課題あり (低い)

主要施策	1	少人数指導等による学力向上		
施策の内容	1	確かな学力向上のための取組の推進		
事業名 (予算/決算)	[3] 嘉麻市学力向上強化プロジェクト事業 (学校教育課：教務係) (予算：26,498千円 / 決算：20,361千円)			
事業の概要	事業の目的	地域人材や学生ボランティアを活用して、教育課程外の学力向上事業を実施することにより、児童生徒の基礎的な学力の定着を図ります。		
	事業の内容	学校外補習学習事業及び嘉麻市土曜未来塾、家庭学習の定着と課題の個別化の促進を行います。		
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	土日の家庭学習時間ゼロの児童生徒：5%以下		
	実績値 (目標値との比較)	土日の家庭学習時間ゼロの児童生徒：6.76% (+1.76)		
	重点課題	生活困窮家庭の参加率の向上		
	課題への取組と成果	<p>土曜未来塾では、今年度は207名の児童生徒が参加をすることができました。そのうち生活困窮家庭の割合は43%でした。生活困窮家庭の参加率上昇のために、集会形式で土曜未来塾参加の呼びかけをしたり、個別に参加を呼びかけたりしました。また、オンライン形式での土曜未来塾を検討するために実証実験も行いました。</p> <p>しかし、生活困窮家庭全体から見た参加率は12.5%であり、参加率を向上させていくための新たな手立てが必要です。</p> <p>今後は学校教育課だけでなく、こども育成課や保護課等と連携して、生活困窮家庭の参加率上昇に取り組んでいきます。</p>		
次年度重点課題	生活困窮家庭の参加率の向上 (参加率20%以上、参加者に占める生活困窮家庭の割合50%以上)			
令和3年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○	
	※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)			
評価の根拠	<p>令和3年度は緊急事態宣言の影響で7月からの事業開始となりました。そのため、土曜日に様々な習い事に参加してしまい、参加者増加を図ることができませんでした。また、まん延防止措置等で休塾になることが多かったことも参加者増加ができなかった要因の一つです。しかし、参加者の増加があまりできなかった中で、参加者に占める生活困窮家庭の割合が43%であった点は評価できるものだと考えます。</p>			
教育委員会評価	今回	B	前回	—

※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (**基準**) C：課題あり (低い)

主要施策	2	個性又は能力を育成する学校教育の充実		
施策の内容	1	子どものニーズに応じる教育の充実		
事業名 (予算/決算)	[4] 特別支援教育推進事業 (学校教育課：教務係) (予算：86,265千円 / 決算：79,502千円)			
事業の概要	事業の目的	保育所(園)・幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校における特別支援教育の推進及び充実のため一人ひとりのニーズに応じた教育条件の整備を図ります。		
	事業の内容	特別な支援を必要とする児童生徒等の早期発見、早期対応のため巡回相談等を行い発達障がいを含む障がいのある児童生徒等を支援します。補助教員等を配置し一人ひとりのニーズに応じた特別支援教育を行います。		
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	特別支援学級生徒の進学率：100% 特別支援教育補助教員等の配置：基準に基づく配置数		
	実績値 (目標値との比較)	特別支援学級生徒の進学率：100% 特別支援教育補助教員等の配置：基準に基づく配置数		
	重点課題	切れ目のない個に応じた支援を行うことができるように、幼小中高の特別支援教育コーディネーターとの情報共有や各種関係機関内の連携を図るとともに、巡回相談の実施による個別の教育支援計画等の充実や特別支援教育に係る共通理解を進めます。また、専門性を高める研修も引き続き実施していきます。補助教員等を配置し、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な指導、支援を行います。また、特別支援教育支援員等が、特別な支援が必要な児童生徒に、適切な対応ができるようにするための効果的な研修を実施します。		
	課題への取組と成果	幼小中高の特別支援教育コーディネーター研修会を実施し情報共有を図り連携を深めることができました。子育て支援課と連携し臨床心理士による巡回相談を実施し就学前より療育を受けた児童へ切れ目のない支援につなぐことができました。経験年数の浅い講師や補助教員等を対象とした研修会の実施及び特別支援学級を中心とした定期的な教育相談を実施したことで個別の支援計画等の充実や特別支援教育に係る共通理解を深めることができました。補助教員9名、特別支援教育支援員32名を配置し配慮を必要とする児童生徒一人ひとりのニーズに応じた特別支援教育を行いました。		
次年度重点課題	特別な支援を必要とする児童生徒は年々増加傾向にありその児童生徒に対応する教職員及び補助教員等も増加の一途をたどっています。そのため一貫した継続的な指導・支援を充実する必要があります。			
令和3年度 自己評価	【評価の指標】	A B C		
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	○		
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)	○		
※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)				
評価の根拠	関係職員との連携を図り補助教員等を配置することで目標値である特別支援学級生徒の進学率100%を達成することができました。			
教育委員会評価	今回	B	前回	—

※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)

主要施策	2	個性又は能力を育成する学校教育の充実
施策の内容	2	社会の変化に対応する教育の充実
事業名 (予算/決算)	[5] 英語コミュニケーション能力の育成事業 (学校教育課：教務係) (予算：24,058千円 / 決算：23,671千円)	
事業の概要	事業の目的	英語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、英語によるコミュニケーション能力を高め、国際感覚を身につけさせます。
	事業の内容	外国語指導助手 (ALT) を学校に配置及びオンライン英会話を推進します。また、小学校における英語専科指導教員を配置します。
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	外国語指導助手 (ALT) 配置校数：13校 オンライン英会話実施 (小学校)：4年生 5回 オンライン英会話実施 (中学校)：2年生 5回 英語専科指導教員の配置：配置
	実績値 (目標値との比較)	外国語指導助手 (ALT) 配置校数：13校 オンライン英会話実施 (小学校)：4年生 5回 オンライン英会話実施 (中学校)：2年生 5回 英語専科指導教員の配置：配置
	重点課題	オンライン英会話を活用した外国語活動や研修を実施し、小学校へ英語専科指導教員を配置していきます。
	課題への取組と成果	小学4年生を対象にオンライン英会話 (グループレッスン) を5回、中学2年生を対象にオンライン英会話 (マンツーマンレッスン) を5回実施しました。また、夏季休業期間に小学校5・6年生の担任教諭向けオンライン英会話 (マンツーマンレッスン) 研修会を実施し、オンライン英会話の理解を深めることができました。さらに、小学校へ英語専科指導教員を配置しました。
	次年度重点課題	オンライン英会話の実施学年 (小学3年生～中学3年生) の拡大を図ります。
令和3年度 自己評価	【評価の指標】	A B C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	○
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)	○
	※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)	
評価の根拠	ALT配置校13校の目標値に対して、ALTを小学校2名、中学校2名の4名配置し、小中学校における外国語教育の充実を図ることができました。また、オンライン英会話においても実施学年、実施回数ともに目標値を達成することができました。さらに、小学校へ英語専科指導教員を配置し、英語指導の充実を図ることができました。	
教育委員会評価		今回 B 前回 —

※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (**基準**) C：課題あり (低い)

主要施策	2	個性又は能力を育成する学校教育の充実			
施策の内容	2	社会の変化に対応する教育の充実			
事業名 (予算/決算)	[6] 情報教育推進事業 (学校教育課：教務係) (予算：7, 854千円 / 決算：6, 639千円)				
事業の概要	事業の目的	小中学校における情報教育の推進を図り、教師のICT活用指導力の向上と授業等における児童生徒1人1台学習端末の活用を図ります。			
	事業の内容	情報教育支援員による学校支援(児童生徒の発達段階に応じた情報活用能力の育成、情報モラル教育の実施、教職員研修の実施等)を行います。また、嘉麻市情報教育推進協議会による小中学校情報教育担当者の情報交換と情報教育推進に関する研修を実施します。			
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	校内研修支援回数：1校につき5回以上			
	実績値 (目標値との比較)	校内研修支援回数：13校全て(100%) ※うち6回以上は8校			
	重点課題	嘉麻市1人1台学習用端末(カスタ)の市内全小中学校への導入と授業での活用についての教職員研修会が必要です。情報教育支援員による端末管理の仕組みを構築するとともに、授業支援の在り方を見直し、ICTを活用した授業が積極的に行われるよう支援を行います。			
	課題への取組と成果	嘉麻市1人1台学習用端末(カスタ)の導入については、計画通りに市内全小中学校へ実施済みです。授業での活用についての職員研修会については、各学校における校内研修形式と教育研究所研修事業としてのプログラミング教育研修会を実施し、授業でのカスタ活用を促進しました。教育研究所情報教育推進室でカスタの端末管理及びユーザー管理を行い、新年度を迎える年度更新工程の構築を行いました。情報教育支援員による研修及び授業支援により教職員のICT活用指導力向上を図りました。			
	次年度重点課題	情報教育支援員による学校支援を質的・量的に高め、嘉麻市1人1台学習用端末(カスタ)を用いた教職員のICT活用指導力を更に向上させます。			
令和3年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C	
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	○			
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)	○			
	※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)				
評価の根拠	目標達成にかかる各指標を全て目標値以上に達成しており、嘉麻市1人1台学習用端末(カスタ)の導入初年度としての目標を達成しています。前年度までコンピュータを活用した授業実践の少なかった教職員が積極的にカスタを授業で活用する姿が見られるなど、市内小中学校における授業の在り方に大きな転換が見られました。				
教育委員会評価		今回	A	前回	—

※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)

主要施策	2	個性又は能力を育成する学校教育の充実			
施策の内容	2	社会の変化に対応する教育の充実			
事業名 (予算/決算)	[7] 小・中学校情報教育施設整備事業 (教育総務課：管理係) (予算：51,131千円 / 決算：51,067千円)				
事業の概要	事業の目的	多様な子どもたちが誰一人取り残されることのない、子どもたち一人ひとりにとって最適な教育ICT環境の実現を図ります。			
	事業の内容	①高速情報通信ネットワーク環境の運用及び検証 ②ICT環境の最適化に向けた改善検討			
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	高速通信ネットワーク環境の運用及び検証：実施 ICT環境の最適化に向けた改善検討：実施			
	実績値 (目標値との比較)	高速通信ネットワーク環境の運用及び検証：実施 ICT環境の最適化に向けた改善検討：実施			
	重点課題	令和3年度については、PC教室のリプレースを実施するため、円滑な事業遂行に向けたスケジュール管理や学校との調整が必要です。			
	課題への取組と成果	学校とのスケジュール調整が順調にいったため、工期内に円滑にリプレースを実施できました。			
次年度重点課題	教育用タブレットの運用が本格的に実施されるため、その中で出てくる問題点や課題を把握し、環境改善に努めます。				
令和3年度 自己評価	【評価の指標】				
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	A	B	C	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○		
	※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)				
評価の根拠	令和3年度事業については、おおむね想定通りに実施できました。				
教育委員会評価		今回	B	前回	—

※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)

主要施策	2	個性又は能力を育成する学校教育の充実		
施策の内容	3	信頼される教員の確保と研修の充実		
事業名 (予算/決算)	[8] 嘉麻市教育研究所研修推進事業 (学校教育課：教務係) (予算：357千円 / 決算：95千円)			
事業の概要	事業の目的	嘉麻市教育研究所を中心に、市の課題に応じた教職員及び教育研究団体等の教育研究を奨励するとともに、若年層の指導技術向上、教職員の資質向上に努めます。		
	事業の内容	教職員研修、講師等対象研修、専門研修の実施、校内研修等における指導助言を行います。また、教職員の資質向上を目的とした教育論文の応募を推奨します。		
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	新しい教育内容に関する研修：2回 特別支援教育に関する研修：4回		
	実績値 (目標値との比較)	新しい教育内容に関する研修：2回実施 (「プログラミング教育研修会」「小学校外国語教育研修会」) 特別支援教育に関する研修：4回以上実施		
	重点課題	新学習指導要領に対応した研修会を充実させます。 特別支援教育等、市内各学校のニーズに応じた研修に対応します。		
	課題への取組と成果	新学習指導要領対応研修としてプログラミング教育研修会と小学校外国語教育研修会を演習形式で実施しました。そのことで、具体的に効果的な指導方法を学ぶことができました。また、特別支援教育においては、特別支援教育補助教員、支援員、介助員に対して指導主事が講話を行ったことで、特別支援教育に関する理解と認識を深めることができました。		
次年度重点課題	各学校との連携を図り、積極的に学校へ出向き、学校の状況や要望に応じた支援を行います。			
令和3年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○	
	※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)			
評価の根拠	<p>当初計画した研究所の研修事業については、コロナ対策のために、オンライン研修会を実施することがありましたが、コロナ対策を十分に講じた中で、目的に応じた研修内容の充実を図ることができました。また、プログラミング教育研修会と小学校外国語教育研修会を演習形式で実施したことにより、具体的に効果的な指導方法を学ぶことができました。</p> <p>特別支援教育においては、各学校のニーズに応じて、特別支援教育研修会の実施、校内研修の講話を行ったことで、特別支援教育に関する理解と認識を深めることができました。</p>			
教育委員会評価	今回	B	前回	—

※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)

主要施策	2	個性又は能力を育成する学校教育の充実			
施策の内容	4	安心して学べる学校づくりの推進			
事業名 (予算/決算)	[9] 学校防犯体制整備事業 (学校教育課: 教務係) (予算: 7, 309千円 / 決算: 6, 768千円)				
事業の概要	事業の目的	児童生徒の安全管理のため、学校安全に関する取組の充実を図ります。			
	事業の内容	学校支援専門員(警察OB)を配置し、警察等関係機関と連携して生徒指導上の支援を行っています。スクールガードリーダーによる学校内外の定期的な巡回や見守り、安全マップの作成、防犯メールの配信により、学校の安全体制の整備充実を図っています。			
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	学校支援専門員の配置: 2人 地域学校安全推進員の配置: 2人			
	実績値 (目標値との比較)	学校支援専門員の配置: 2人 地域学校安全推進員の配置: 2人			
	重点課題	生徒指導上の諸課題に対応する体制の点検を徹底させます。 学校安全計画や危機管理マニュアルの共通理解の徹底を図ります。			
	課題への取組と成果	学校支援専門員が定期的な学校訪問を行い、学校と連携しながら防犯体制等について指導助言を行いました。さらに、スクールガードリーダーや地域ボランティアと連携しながら通学路での交通安全指導を行ったことにより、学校安全に関する取組の充実を図ることができました。			
次年度重点課題	各小中学校の基本的な安全対策について、きめ細かな助言・指導を徹底し、組織的な危機管理意識の醸成に努めます。				
令和3年度 自己評価	【評価の指標】		A	B	C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)			○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)			○	
	※評価の指標 A: 期待以上 (高い) B: 概ね期待どおり (基準) C: 課題あり (低い)				
評価の根拠	<p>学校の求めに応じて、学校支援専門員が適切な助言を行ったことで、生徒指導上の諸問題について迅速に対応することができました。また、交通安全教室への参加、中学校生徒指導委員会への参加等を通して、学校との連携を深めることができました。さらに、スクールガードリーダーの配置、地域ボランティア、防犯メールの全校実施により、学校防犯体制の整備が進んでいます。</p> <p>不審者事案については、迅速に学校支援専門員が対応し、警察と連携して巡回等をして安全確保に努めてきました。</p>				
教育委員会評価		今回	B	前回	—

※評価の指標 A: 期待以上 (高い) B: 概ね期待どおり (基準) C: 課題あり (低い)

主要施策	2	個性又は能力を育成する学校教育の充実
施策の内容	4	安心して学べる学校づくりの推進
事業名 (予算/決算)	[10] 通学対策事業 (学校教育課：教務係) (予算：49,047千円 / 決算：44,532千円)	
事業の概要	事業の目的	遠距離通学の負担を軽減します。また、通学路の安全確保に関する取組を推進します。
	事業の内容	遠距離通学することになった児童生徒の通学の負担を軽減します。また、嘉穂小学校及び嘉穂中学校のスクールバス運行に関して、実情に応じた通学対策を行います。さらに、通学路の安全を確保するため、嘉麻市通学路安全推進会議を開催し、定期的(2年に1回)に市内小学校において、合同点検を実施します。
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	対象児童生徒への対応：100% 嘉麻市通学路安全推進会議：年2回開催
	実績値 (目標値との比較)	対象児童生徒への対応：100% 嘉麻市通学路安全推進会議：年2回開催(書面開催)
	重点課題	嘉穂小・中学校のスクールバス運行について、引き続き学校、PTA、保護者及びバス運行委託業者と協議を行い、実情に応じた見直し等を行う必要があります。通学路の安全確保については、通学路安全推進会議を実施し、合同点検の内容を報告・協議した後、その対策を講じる必要があります。
	課題への取組と成果	稲築西小学校に通学する児童のうち、遠距離通学している児童のバス定期券の購入費用の補助を100%実施することができました。また、嘉穂小学校及び嘉穂中学校でスクールバスを運行し、遠距離通学となる児童生徒の送迎を行いました。令和3年度も宮野地区・足白地区の中学生のスクールバス利用(登校便)を実施しました。 通学路の安全確保の取組として千葉県八街市の事故を受け、嘉麻市通学路安全推進会議のメンバーで令和3年9月に緊急合同点検を実施し、カーブミラーの角度調整や狭い歩道の電柱移設など対策実施しました。
次年度重点課題	スクールバスについては、その運用方法について継続して協議して見直し等を行っていきます。また、通学路の安全確保について、嘉麻市通学路安全推進会議にて、定期的に合同点検、対策の実施というサイクルで行っていきます。	
令和3年度	【評価の指標】	A B C
	実績値評価(当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	○
	課題への取組と成果(当該年度の取組における成果・効果)	○
※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)		
自己評価	評価の根拠	目標値をすべての項目で達成することができました。 定期的(2年に1回)に合同点検を実施していますが、千葉県八街市の事故を受け緊急合同点検を実施しました。追加の危険箇所について、警察や道路管理者と対策を協議し、対策を講じました。
教育委員会評価		今回 A 前回 ー

※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)

主要施策	2	個性又は能力を育成する学校教育の充実			
施策の内容	5	学校施設整備の推進			
事業名 (予算/決算)	[11] 学校施設維持管理業務事業 (教育総務課：管理係) (予算：745,773千円 / 決算：296,050千円)				
事業の概要	事業の目的	すべての児童生徒が安心して学習に取り組めるよう校舎等の維持管理を行い、快適な教育環境の整備を図ります。			
	事業の内容	①小中学校のトイレ洋式化改修工事 ②小中学校機械設備等大規模改修工事 ③小中学校の屋内屋外運動場改修工事 ④小中学校の施設修繕及び維持管理			
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	小中学校のトイレ洋式化改修工事：実施 小中学校機械設備等大規模改修工事：実施 小中学校の屋内屋外運動場改修工事：実施 小中学校の施設修繕及び維持管理：実施			
	実績値 (目標値との比較)	小中学校のトイレ洋式化改修工事：実施 (小中学校8校) 小中学校機械設備等大規模改修工事：実施 (上山田小学校・山田中学校) 小中学校の屋内屋外運動場改修工事：未実施 (令和4年度に繰越) 小中学校の施設修繕及び維持管理：必要に応じて実施			
	重点課題	上山田小学校大規模改造工事、山田中学校機械設備工事、小中学校トイレ改修工事等を実施し、児童生徒の教育環境の改善に努めます。			
	課題への取組と成果	小中学校のトイレ改修については、予定どおり実施することができました。山田中学校及び上山田小学校の大規模改造工事については、工事を次年度に繰り越し、継続して実施しています。			
次年度重点課題	繰越工事及び補助事業については、令和4年度中に工事を完了する必要があるため、適切な工事監理が必要となります。				
令和3年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C	
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○		
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○		
	※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)				
評価の根拠	トイレ改修については、大きな問題もなく予定通り実施できましたが、大規模改造工事については、工法の検討等に時間を要し、令和3年度に工事を完了することができなかつたため、Bと判断しました。				
教育委員会評価		今回	B	前回	—

※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)

主要施策	2	個性又は能力を育成する学校教育の充実			
施策の内容	5	学校施設整備の推進			
事業名 (予算/決算)	[12] 大隈城山校維持管理事業 (教育総務課：管理係) (現年予算：26,142千円 / 決算：22,358千円) (繰越予算：24,239千円 / 決算：21,790千円)				
事業の概要	事業の目的	すべての生徒が安心して学習に取り組めるよう校舎等の管理を行い、快適な教育環境の整備を図ります。			
	事業の内容	①ICT環境整備に向けた検討 ②一人一台端末の整備 ③高速通信ネットワークの整備			
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	ICT環境整備に向けた検討：実施 一人一台端末の整備：－ 高速通信ネットワークの整備：－			
	実績値 (目標値との比較)	ICT環境整備に向けた検討：実施 一人一台端末の整備：実施 高速通信ネットワークの整備：実施			
	重点課題	GIGAスクール構想に伴う情報通信ネットワーク整備を実施し、生徒の教育環境の改善に努めます。			
	課題への取組と成果	令和2年度に補助金等、財源のめどが立ったため、予定を前倒しして令和3年度にICT環境の整備を実施しました。			
次年度重点課題	令和4年度よりタブレットを本格的に運用するため、その中で出てくる問題点や課題を把握し、環境改善に努めます。				
令和3年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C	
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	○			
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)	○			
	※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)				
評価の根拠	国の補助事業を活用することができたため、予定を前倒しして令和5年度までの目標をすべて実施することができました。				
教育委員会評価		今回	A	前回	－

※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)

主要施策	2	個性又は能力を育成する学校教育の充実			
施策の内容	5	学校施設整備の推進			
事業名 (予算/決算)	[13] 義務教育学校施設整備事業 (学校施設課：建設係) (予算：5,700,056千円 / 決算：17,961千円)				
事業の概要	事業の目的	小中一体型校舎による義務教育学校施設整備を行い、「質の高い教育を実現する学校」及び「地域創造の核となる学校」づくりを目指します。			
	事業の内容	義務教育学校施設整備を行います。			
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	令和5年4月開校に向けた工程の設定 小中一体型校舎建設に係る基本設計等の作成			
	実績値 (目標値との比較)	基本設計完成 校舎棟及び学童保育所等の施設整備着手			
	重点課題	各中学校区における工期は、かなり厳しい設定であったにもかかわらず、さらに2か月間の短縮を余儀なくされたため、工事工程の見直しや進捗管理の徹底が必要です。			
	課題への取組と成果	毎週3～4日間を3中学校区の各受注業者との個別協議の時間に充て、生徒をはじめとする学校利用者の安全と施設における品質の確保を第一に考えながら工事工程の見直し及び進捗管理を行うことができました。			
	次年度重点課題	令和5年4月開校に向け、特に安全面に配慮しながら施設整備事業を遂行します。			
令和3年度 自己評価	【評価の指標】				
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	A	B	C	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○		
	※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)				
評価の根拠	協議を重ね、工程を細かく見直すことで、各施設の完成引渡しは当初予定にかなり近づけることができ、令和5年4月の開校に向け、本校舎建設工事にも着手することができました。				
教育委員会評価		今回	B	前回	—

※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)

主要施策	2	個性又は能力を育成する学校教育の充実		
施策の内容	5	学校施設整備の推進		
事業名 (予算/決算)	[14] 義務教育学校開校準備事業 (教育総務課：教育企画係) (予算：3, 245千円 / 決算：2, 106千円)			
事業の概要	事業の目的	現中学校区を基本校区として、基本校区内の小学校と中学校を統合した義務教育学校を設置することにより、学校教育の質の向上と、学校を核とした地域コミュニティの形成を目指します。		
	事業の内容	碓井・稲築・稲築東の3中学校区において、令和5年度の義務教育学校開校に向けた、学校名称、校章及び校歌など、開校までに必要な事項について協議、検討を行っていきます。		
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	学校名称：決定 校歌・校章：検討 その他必要な事項：検討・調整		
	実績値 (目標値との比較)	学校名称：決定（9月定例議会において学校設置条例の改正） 校歌・校章：学校名称決定後から継続審議中		
	重点課題	最優先で学校名称を決定し、引き続き校章・校歌について検討を進めながら、開校に向け必要な項目について検討・調整を行っていきます。		
	課題への取組と成果	令和3年3月から3中学校区に開校準備委員会を設置し協議を進めています。 学校名称：令和3年7月 中間答申 令和3年9月議会 学校設置条例改正 校歌・校章：学校名称の決定を受け、現在検討中 令和3年度も新型コロナウイルス感染症対策として、会議の書面開催等で対応しており、やや遅延ながらも、令和4年夏までに校歌・校章を決定するスケジュールで進めています。		
次年度重点課題	令和5年4月の義務教育学校の開校をスムーズに迎えることができるよう、学校を取り巻く環境整備を行っていきます。また、各校区における開校記念事業の実施について、地域の声を聞きながら検討していきます。			
令和3年度 自己評価	【評価の指標】	A B C		
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)			
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)			
	※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（ 基準 ） C：課題あり（低い）			
評価の根拠	学校名称決定までは概ねスケジュール通り進捗していきつつありますが、校歌・校章の検討に当たっては、新型コロナウイルス感染拡大対策により、書面会議にて開催するなどの対策を講じてきており、対面会議と異なり委員間の意思疎通の面で課題が残りました。ただし、スケジュール的には若干の遅延はあるものの、概ね当初の予定通り令和4年7月頃を目途に校歌・校章の答申がなされそうな状況であり、現時点では、比較的順調に開校に向けて進んでいる状況です。			
教育委員会評価	今回	B	前回	—

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（**基準**） C：課題あり（低い）

主要施策	2	個性又は能力を育成する学校教育の充実		
施策の内容	6	地域に開かれた学校づくりの推進		
事業名 (予算/決算)	[15] コミュニティ・スクール推進事業 (学校教育課: 教務係) (予算: 110千円 / 決算: 110千円)			
事業の概要	事業の目的	保護者や地域住民等が一定の権限と責任を持って学校運営に参加することで、育てたい児童生徒像、目指すべき教育のビジョンを共有し、目標の実現に向けて協働する仕組みを作ります。		
	事業の内容	全校実施に向けて、段階的に実施校を増やし、各学校の準備や運営に対しての支援を行います。		
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	学校運営協議会: 準備		
	実績値 (目標値との比較)	学校運営協議会: 準備 (下山田小学校、熊ヶ畑小学校の2校)		
	重点課題	令和3年度は下山田小学校と熊ヶ畑小学校で準備を進め、2校については、令和4年度からのコミュニティ・スクールの本格実施を目指します。		
	課題への取組と成果	令和3年度は、地域の学校支援体制が整っている下山田小学校と熊ヶ畑小学校を選定し、コミュニティ・スクールの本格実施に向けた準備を進めるように指導しました。 コミュニティ・スクール導入促進事業に関する支援 (学校運営協議会の大綱の作成やCSディレクターの人材確保) を行うとともに、予算面の打合せを行いました。また、校長・教頭にコミュニティ・スクールに関する文部科学省の研修の情報提供をしたり、市教育研究所の所長が学校の進捗状況を把握するための訪問を行ったりしました。 そのことにより、関係校の教職員や地域の関係者のコミュニティ・スクールに関する理解も深まり、本格実施に向けた準備が整いました。		
次年度重点課題	下山田小学校と熊ヶ畑小学校をモデルとして、令和4年度は、嘉穂小学校と牛隈小学校で本格実施に向けた準備を進めます。			
令和3年度 自己評価	【評価の指標】	A B C		
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	○		
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)	○		
	※評価の指標 A: 期待以上 (高い) B: 概ね期待どおり (基準) C: 課題あり (低い)			
評価の根拠	令和4年度の4月7日に、下山田小学校において第1回の学校運営協議会が行われました。このように、コミュニティ・スクールの本格実施が始まりました。 また、熊ヶ畑小学校においても、学校運営協議会の立ち上げに向けて、最終的な調整が進められています。			
教育委員会評価	今回	B	(前回)	—

※評価の指標 A: 期待以上 (高い) B: 概ね期待どおり (**基準**) C: 課題あり (低い)

主要施策	2	個性又は能力を育成する学校教育の充実			
施策の内容	6	地域に開かれた学校づくりの推進			
事業名 (予算/決算)	[16] 学校関係者評価事業 (学校教育課:教務係) (予算:551千円 / 決算:66千円)				
事業の概要	事業の目的	教育活動等の成果の検証とその客観性・透明性の確保を通じて、学校経営の改善と発展を目指します。			
	事業の内容	保護者、地域住民等の連携強化のために学校関係者評価を全校で実施し、評価結果を公表しています。			
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	学校関係者評価実施・公表校:実施			
	実績値 (目標値との比較)	学校関係者評価実施・公表校:実施 (全13校で実施)			
	重点課題	学校関係者評価委員会の意見をもとに公表された学校ごとの次年度の改善策が、次年度の教育指導計画書に反映され、確実に実施されているかを確認するとともに、不十分な点について指導していきます。			
	課題への取組と成果	主幹教諭研修会等において、学校関係者評価委員会の意見が教育指導計画書に反映されている具体例を示したり、学校関係者評価を全校で実施し、学校ホームページ、学校だより、保護者会等で積極的に公表するよう校長会議等で指導したりするなど、PDCAサイクルが機能するようになりました。 その結果、コロナ禍のため、集合形式での学校関係者評価委員会の実施はほとんどできませんでしたが、書面での集約を行い、学校の取組に対する意見を集め、次年度の教育指導計画への反映が行われました。			
次年度重点課題	次年度もコロナ禍が想定されます。その中で、関係者評価委員に学校の取組を理解していただいたり、意見を集約したりする効果的な方法を検討する必要があります。				
令和3年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C	
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○		
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○		
	※評価の指標 A:期待以上(高い) B:概ね期待どおり(基準) C:課題あり(低い)				
評価の根拠	学校関係者評価の実施・公表数13校の目標値に対して、すべての学校で自己評価に基づく、学校関係者評価の実施・公表・報告が確実に行われました。 また、各学校の令和4年度の教育指導計画書に学校関係者評価委員の意見が反映されていました。				
教育委員会評価		今回	B	前回	—

※評価の指標 A:期待以上(高い) B:概ね期待どおり(基準) C:課題あり(低い)

主要施策	2	個性又は能力を育成する学校教育の充実			
施策の内容	6	地域に開かれた学校づくりの推進			
事業名 (予算/決算)		[17] 学校開放事務事業 (教育総務課: 管理係) (予算: — 千円 / 決算: — 千円)			
事業の概要	事業の目的	生涯学習社会における文化、スポーツ等の地域活動の場として、学校施設を開放することにより、地域住民の生涯学習の推進を図ります。			
	事業の内容	①施設開放条件の方針整理及び検証 ②施設利用減免規定の見直し ③施設備品等の維持管理			
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	施設開放条件の方針整理及び検証: 実施 施設利用減免規定の見直し: 検討 施設備品等の維持管理: 実施			
	実績値 (目標値との比較)	施設開放条件の方針整理及び検証: 実施 施設利用減免規定の見直し: 実施 施設備品等の維持管理: 実施			
	重点課題	今後も引き続き、新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、利用制限の強化若しくは緩和等、適切に判断し事業を実施していく必要があります。			
	課題への取組と成果	令和3年度当初は、令和2年度に引き続き青少年健全育成団体に限り施設を開放してきましたが、11月に利用制限を解除し、登録団体すべてに対し、施設を開放しました。			
次年度重点課題	今後も引き続き、新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、利用制限について、適切に判断し事業を実施していく必要があります。				
令和3年度 自己評価	【評価の指標】		A	B	C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○		
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)			○	
	※評価の指標 A: 期待以上 (高い) B: 概ね期待どおり (基準) C: 課題あり (低い)				
評価の根拠	減免規定の見直しについては、予定を前倒しして行うことができたため、Aとしました。 また、令和3年度については施設の利用制限を解除し、全ての登録団体が使用できる状態にしましたが、大きな問題もなく順調に事業を実施することができたため、Bとしました。				
教育委員会評価		今回	B	前回	—

※評価の指標 A: 期待以上 (高い) B: 概ね期待どおり (基準) C: 課題あり (低い)

主要施策	2	個性又は能力を育成する学校教育の充実			
施策の内容	7	小中一貫教育への取組			
事業名 (予算/決算)	[18] 小中一貫教育推進事業 (学校教育課：教務係) (予算： - / 決算： -)				
事業の概要	事業の目的	小中一貫教育先進校の取組の成果を踏まえ、学年段階の区切りを柔軟に設ける等、小中学校間の連携・接続を改善するための仕組みについて、種々の観点に配慮しつつ十分に研究していきます。また、小中学校間の教職員の共同研究、小中連携した学力向上の取組、生徒指導の連携等を図ります。			
	事業の内容	小中学校間の教職員の共同研究を通して、小中連携を推進し、小中一貫した教育活動の充実を図ります。			
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	職員間の中学校区交流研究の実施：2回以上 研究発表校数：2校（碓井中学校区）の実施			
	実績値 (目標値との比較)	職員間の中学校区交流研究の実施：各中学校区毎に2回以上は実施 研究発表校数：碓井中学校11月12日、碓井小学校11月19日に実施			
	重点課題	義務教育学校開校に向け、教育総務課と連携し、各中学校区の共通の方針を協議します。 教職員への理解を深める手立てを講じます。			
	課題への取組と成果	小中一貫教育本部会議（校区代表校長）、小中一貫教育導入準備部会（主幹教諭）を定期的に行ったことで、各中学校区の共通の方針を協議することができました。 また、教職員への理解を深める手立てとして、先進校から講師を招いたことで、具体的実践事例に学ぶことができました。			
次年度重点課題	小中一貫教育の実施、義務教育学校開校に向けて、9年間を見通した教育課程の試行的な取組を検証します。				
令和3年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C	
	実績値評価（当該年度の目標値に対する達成度・進捗度）		○		
	課題への取組と成果（当該年度の取組における成果・効果）		○		
	※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（ 基準 ） C：課題あり（低い）				
評価の根拠	<p>小中一貫教育本部会議（校区代表校長）は6回、小中一貫教育導入準備部会（主幹教諭）は8回実施したことで、各中学校区の交流が図られ、共通の方針を協議することができました。また、先進校から講師を招き、具体的事例を学んだことで、小中一貫教育の組織運営や教育カリキュラム作成の手順を学ぶことができました。</p> <p>校区としての研究発表は、碓井中学校11月12日、碓井小学校11月19日に共通の目標を設定して実施することができ、小中連携した共同研究が深まりました。</p>				
教育委員会評価		今回	B	前回	—

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（**基準**） C：課題あり（低い）

主要施策	2	個性又は能力を育成する学校教育の充実		
施策の内容	8	教育の機会均等の促進		
事業名 (予算/決算)	[19] 就学援助事業 (学校教育課: 教務係) (予算: 97,032千円 / 決算: 87,141千円)			
事業の概要	事業の目的	経済的理由により、就学困難な児童生徒及び特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者に対し、教育費の一部を負担します。		
	事業の内容	経済的理由により就学困難な児童生徒及び特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者に対し、教育費の一部を負担します。さらに、必要な援助が適切な時期に支給されるよう基準の見直しを随時行います。		
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	該当児童生徒への援助: 100%実施		
	実績値 (目標値との比較)	該当児童生徒への援助: 100%実施		
	重点課題	経済的理由により、就学困難な児童生徒の支援を最優先とするため、実情に応じた援助の基準について、必要に応じて見直します。		
	課題への取組と成果	就学援助認定率は、47.3%でした。そのうち要保護率は5.5%、準要保護率は41.8%でした。 申請のあった該当児童生徒に対し、学用品費、給食費、修学旅行費等の教育費の一部を援助することができました。また、入学準備に必要な学用品費の一部を入学前の3月下旬に援助するため、12月から対象保護者に周知し、1月から申請受付を開始しました。		
次年度重点課題	経済的理由により、就学困難な児童生徒の支援を最優先とするため、実情に応じた支援を行います。児童生徒の保護者に対して本事業について、市の広報等の情報発信による周知を行います。			
令和3年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○	
	※評価の指標 A:期待以上(高い) B:概ね期待どおり(基準) C:課題あり(低い)			
評価の根拠	申請のあった該当児童生徒に対し、学用品費、給食費、修学旅行費等の教育費の一部を援助することができました。 保護者への周知方法として、市の広報誌や市のホームページに掲載しています。在校生については、学校にてお知らせを配布し、新小学1年生の保護者へは、お知らせを郵送しています。			
教育委員会評価	今回	B	前回	—

※評価の指標 A:期待以上(高い) B:概ね期待どおり(基準) C:課題あり(低い)

主要施策	2	個性又は能力を育成する学校教育の充実		
施策の内容	8	教育の機会均等の促進		
事業名 (予算/決算)	[20] 奨学金事業 (教育総務課: 教育総務係) (予算: 14, 515千円 / 決算: 11, 153千円)			
事業の概要	事業の目的	生活困窮者の学ぶ機会の支援並びに教育の機会均等の促進と、経済的負担の軽減を図ります。		
	事業の内容	①奨学資金貸付業務 ②奨学資金返還収納業務 ③奨学資金審議会事務 ④県教育文化奨学財団奨学金申請受付業務 など		
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	奨学資金貸付者数: 20人 奨学資金返還金徴収率の向上 (令和3現年度分): 88%		
	実績値 (目標値との比較)	令和3年度新規貸付者数: 9名 奨学資金返還金徴収率の向上 (現年度分): 88.89%		
	重点課題	滞納解消に向けた取組として、引き続き口座振替の推進や納付相談等の個別対応を実施しながら、特に滞納を生まないために、現年度滞納者に対する督促や分納誓約などを強化していきます。また、新型コロナウイルス感染拡大対策として、令和2年度に続き猶予制度について周知を図ります。		
	課題への取組と成果	口座振替実施者数: 95名 (総返還者数: 180名) 令和3年度口座振替開始者: 2名 督促通知: 12月 (過年度分)、4月 (現年度分) 発送 個別訪問: 32件 (10月、12月実施、市内滞納者対象) 納付相談: 12件 新型コロナウイルス感染拡大による猶予: 6件 滞納を生まない取組として、現年度納付率の向上を最優先に実施しており、現年度徴収率で目標値を達成できました。また、過年度収納率も9.32%と3年ぶりに向上し、結果的に、滞納総額の増加を抑えることができました。		
次年度重点課題	口座振替に加えコンビニ支払いの推進や納付相談等の個別対応、連帯保証人への請求などを実施しながら、滞納者への取組を強化していきます。			
令和3年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○	
	※評価の指標 A: 期待以上 (高い) B: 概ね期待どおり (基準) C: 課題あり (低い)			
評価の根拠	<p>新規貸付者数は減少傾向となっていますが、高等学校等就学支援金制度や給付型奨学金制度の創設などが影響していると考えております。令和3年度も追加募集を実施しましたが、応募者無しとの結果であり、新規貸付者数の減少が直ちに就学困難者数の増加に繋がっているとは捉えておりません。</p> <p>また、令和4年度からは申請者の必要額に合わせた貸与が行えるよう、貸与月額を選択制を導入するなど制度改正を行いました。更に、過年度滞納者については、個別訪問等を実施した結果、過年度徴収率も3年ぶりに向上し、滞納総額の増加を抑えることができました。</p>			
教育委員会評価	今回	B	前回	—

※評価の指標 A: 期待以上 (高い) B: 概ね期待どおり (基準) C: 課題あり (低い)

主要施策	3	豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進			
施策の内容	1	道徳性と自立心を養う心の教育の充実			
事業名 (予算/決算)	[21] 道徳教育推進事業 (学校教育課: 教務係) (予算: - / 決算: -)				
事業の概要	事業の目的	道徳教育及び「特別の教科 道徳」において、小・中学校が連携しながら教員の実践力の向上を図ることにより、学校教育全体を通じて児童生徒の道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成を図ります。			
	事業の内容	小中連携を踏まえた道徳教育研修会を実施します。また、各小中学校において道徳科に関する校内研修を実施します。			
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	道徳科に関する校内研修の実施: 実施			
	実績値 (目標値との比較)	道徳科に関する校内研修の実施: 全13校で実施			
	重点課題	道徳教育及び道徳科の充実に向け、指導と評価の一体化を目指した計画づくりと授業改善を図ることができるように指導助言を行います。			
	課題への取組と成果	道徳が教科化され小学校は2年目、中学校では初年度の取組でした。年間指導計画に則った道徳科の実施を各学校へ指導し、計画に沿った実施が十分に行われていましたが、「考え、議論する道徳」を目指す授業計画の作成や指導方法に課題があったため、各学校の校内研修で教職員の指導力向上につなげる指導・助言を行っているところです。			
次年度重点課題	令和5年度の小中一貫教育実施に向けて、小・中学校の連携を強める取組を行い、内容項目について校種相互の系統性を理解した授業を実践するよう指導・助言を行います。				
令和3年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C	
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○		
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○		
	※評価の指標 A: 期待以上 (高い) B: 概ね期待どおり (基準) C: 課題あり (低い)				
評価の根拠	目標達成にかかる指標は達成しているものの、小中一貫教育に向けた取組は道半ばであり、たゆまぬ努力が必要です。これからも校内研修のみならず、県教委主催の校外研修等で学んだ内容を校内へ還流するなど行い、更なる指導力向上の取組が必要です。				
教育委員会評価		今回	B	前回	—

※評価の指標 A: 期待以上 (高い) B: 概ね期待どおり (**基準**) C: 課題あり (低い)

主要施策	3	豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進			
施策の内容	1	道徳性と自立心を養う心の教育の充実			
事業名 (予算/決算)	[22] キャリア教育推進事業 (学校教育課：教務係) (予算：200千円 / 決算： 0千円)				
事業の概要	事業の目的	家庭や地域と連携して、職業・職場体験活動等を行い、児童生徒一人ひとりのキャリア発達を支援し、望ましい勤労観、職業観を育てます。			
	事業の内容	市内の小中学校において、総合的な学習の時間や特別活動等の中で、基礎的・汎用的能力を育成する教育活動を展開します。			
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	P D C Aを検証する校内推進委員会の設置：設置 キャリアパスポートの活用：100%			
	実績値 (目標値との比較)	P D C Aを検証する校内推進委員会の設置：設置 (全13校で設置) キャリアパスポートの活用：100%			
	重点課題	キャリアパスポートの作成と校種間の引き継ぎの徹底			
	課題への取組と成果	<p>コロナ禍のため、本年度も職場体験学習はすべての学校で実施できませんでした。しかし、オンライン形式で職業調べや講師を招いての学習会を実施するなど、キャリア教育推進を行うことができました。</p> <p>また、主幹教諭研修会において、キャリア教育と他教科との連携を図るカリキュラム・マネジメントを行い、キャリア教育の年間指導計画の改善・実践ができるように指導助言を行いました。また、キャリアパスポートの活用・充実、校種間の引き継ぎについても指導を行いました。</p> <p>その結果、各学校において、校内推進委員会が設置され、キャリアパスポートの作成・更新及び接続学校への引き継ぎを行うことができました。</p>			
次年度重点課題	キャリア教育のP D C A検証の実施				
令和3年度 自己評価	【評価の指標】		A	B	C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)			○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)			○	
	※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)				
評価の根拠	<p>キャリア教育に関する調査及び教育指導計画書をもとにキャリア教育の年間指導計画の改善・実施について確認したところ、小中学校13校において、改善・実施していました。また、キャリアパスポートについても作成・更新、接続校への引き継ぎをすることができました。</p>				
教育委員会評価		今回	B	前回	—

※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (**基準**) C：課題あり (低い)

主要施策	3	豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進			
施策の内容	2	健やかな心身をはぐくむ健康教育の充実			
事業名 (予算/決算)	[23] 学校保健事業 (学校教育課: 教務係) (予算: 21,174千円 / 決算: 20,485千円)				
事業の概要	事業の目的	児童生徒及び教職員の心身両面にわたる健康管理の徹底を図ります。また、事故、加害行為、災害等により、児童生徒に危険又は危害が生じた場合の対処として、災害共済に加入します。			
	事業の内容	①児童生徒、教職員の健康診断を実施 ②市内の小中学校に学校医、学校歯科医、学校薬剤師を配置 ③各学校において学校保健に関する年間計画を作成 ④災害共済加入手続きや給付金の支払業務実施 ⑤新型コロナウイルス感染症について取組の検討・実施			
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	健康診断受診率: 100% 災害共済加入率: 100% 学校保健年間計画作成: 実施			
	実績値 (目標値との比較)	健康診断受診率: 96% 災害共済加入率: 100% 学校保健年間計画作成: 実施			
	重点課題	健康診断受診率が目標達成にかかる指標(100%)を達成できるよう関係機関等との連携を図り、小中学校へ指導及び健康診断未受診者に対して啓発を重点的に行い、受診を促します。			
	課題への取組と成果	関係機関と連携を図り、小中学校へ指導や保護者への通知を行いました。また、児童生徒及び教職員の心身両面にわたる健康管理を徹底できるように、学校保健年間計画の見直しと検証を進めるよう指導しました。災害共済加入手続きや給付金の支払い業務を行いました。			
次年度重点課題	健康診断受診率が目標達成にかかる指標(100%)を達成できるよう関係機関等との連携を図り、小中学校へ指導及び健康診断未受診者に対して啓発を重点的に行い、受診を促します。新型コロナウイルス感染症について取組の継続を行います。				
令和3年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C	
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○		
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○		
※評価の指標 A: 期待以上 (高い) B: 概ね期待どおり (基準) C: 課題あり (低い)					
評価の根拠	健康診断受診率96%となりました。「未検査用の受診のお知らせ」の配布や、校医やかかりつけ医での受診を促すなどの取組を行いました。また、学校における新型コロナウイルス感染拡大防止のために各学校にコロナ対策の消耗品(アルコールや非接触体温計等)や備品(AIサーマルカメラ等)の導入を行いました。				
教育委員会評価		今回	B	前回	—

※評価の指標 A: 期待以上 (高い) B: 概ね期待どおり (基準) C: 課題あり (低い)

主要施策	3	豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進		
施策の内容	2	健やかな心身をはぐくむ健康教育の充実		
事業名 (予算/決算)	[24] 学校給食運営事業 (学校教育課：学校給食係) (予算：244,994千円 / 決算：238,117千円)			
事業の概要	事業の目的	嘉麻市内小中学校で完全給食を行い、学校給食における衛生管理の徹底を図るとともに、魅力ある学校給食の充実につとめ、「食事の重要性」等を身につける「食育」に関する教育を支援します。		
	事業の内容	望ましい食習慣を養い、栄養の改善及び健康の増進のため安心安全な学校給食を実施するとともに、教職員への食育や衛生管理の研修を行うなど食の知識向上を図ります。 安心・安全な給食の提供を行うため、保健所等の立ち入り調査にて指摘された事項について対応し、更なる衛生管理にの徹底を図ります。 地産地消を継続推進し、利用率の向上を図ります。 安定した給食の提供のため、給食事業の民間委託について検討します。		
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	年間給食実施回数：190回 地場産食材利用率：30%		
	実績値 (目標値との比較)	年間給食実施回数：190回 地場産食材利用率：32.3%		
	重点課題	新型コロナウイルス感染症対策もふまえた安心・安全な学校給食を実施し、更なる衛生管理の徹底を図ります。また、「食の重要性」を身につける教育の支援を行います。地場産利用率については30%を目指し、更なる利用率の向上を目指します。学校給食の民間委託に向けた調査研究を行い、スムーズな移行を目指します。		
	課題への取組と成果	年間190回の給食を実施し、1日約3,000食の提供を行いました。食育に関する直接の研修は実施できませんでしたが、食育指導に対する資料の提供を実施いたしました。 地産地消の推進に関しては、地元直売所を通じ、地場産の利用に努めました。地場産利用率32.3%で、前年度に比べ5.1ポイント上昇し、目標値である30%以上の利用を達成できました。 安定した給食の提供のため、「嘉麻市学校給食調理業務委託実施計画」を作成しました。		
次年度重点課題	安心・安全な学校給食を実施し、衛生管理の徹底を図ります。また、「食の重要性」を身につける教育の支援を行います。地場産利用率については更なる利用率の向上を目指します。義務教育学校に新設される調理場の整備を行うとともに、学校給食の民間委託に向け、適切な業者選考を実施します。			
令和3年度 自己評価	【評価の指標】	A B C		
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	<input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>		
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)	<input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>		
	※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（基準） C：課題あり（低い）			
評価の根拠	新型コロナウイルス感染症による休校などの緊急対応を含め、安心安全な学校給食を実施できました。地場産利用率についても直売所との連絡を密にし、利用促進に努めました。 義務教育学校に新設される給食調理室の設計に関わり、衛生管理の徹底が図られるよう調整しました。学校給食調理業務の民間委託について調査研究を行い、安定した給食の提供のため「嘉麻市学校給食調理業務委託実施計画」を作成しました。			
教育委員会評価	今回	B	前回	—

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（基準） C：課題あり（低い）

主要施策	3	豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進			
施策の内容	2	健やかな心身をはぐくむ健康教育の充実			
事業名 (予算/決算)	[25] 学校給食費算定及び収納事業 (学校教育課：学校給食係) (予算： 366千円 / 決算： 324千円)				
事業の概要	事業の目的	学校給食費は賄材料費の購入に要する経費のみを保護者負担としており、安心安全な食材の購入等を行うため適正な算定を行い、適正な徴収業務を行うことで、受益者負担の公平性を確保します。			
	事業の内容	年間を通じた学校給食栄養価の確認と賄材料費の適切な執行を行います。未納通知や催告書の発送、訪問徴収等の実施及び高額滞納者に対して、納付相談の実施や児童手当からの引去りの同意の取り交わしを実施します。			
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	現年度収納率：98.80% 過年度収納率：14.10%			
	実績値 (目標値との比較)	現年度収納率：99.19% 過年度収納率：11.32%			
	重点課題	受益者負担の公平性を確保するため、更なる収納率の向上を目指し、徴収業務を行います。			
	課題への取組と成果	未納通知や催告書の発送、新型コロナウイルス感染症に配慮しながらの訪問徴収等収納率向上への取組を実施しました。 現年度(令和3年度)の収納率は99.19%で、目標値である98.8%を達成することができました。過年度の収納率は11.32%で、前年度に比べて4.88ポイント下落し、目標値である14.10%に及びませんでした。過年度の繰越額については昨年度に比べ、968,439円減少しました。新型コロナウイルス感染症による影響も考慮しながら、夜間徴収などの新規の各戸訪問の実施は控えました。			
次年度重点課題	受益者負担の公平性を確保するため、更なる収納率の向上を目指し、徴収業務を行います。義務教育学校開校に伴い、すべての学校が自校給食となることから給食費の市内統一に向けた取組を実施します。				
令和3年度 自己評価	【評価の指標】		A	B	C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)			○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)			○	
	※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)				
評価の根拠	未納通知や催告書の発送、新型コロナウイルス感染症に配慮しながらの訪問徴収等収納率向上への取組を実施しました。 現年度(令和3年度)の収納率は目標値を達成することができました。過年度の収納率は目標値に及びませんでした。過年度の繰越額については昨年度に比べ、968,439円減少しました。新型コロナウイルス感染症による影響も考慮しながら、夜間徴収などの新規の各戸訪問の実施は控えながらも、一定の成果を上げることができました。				
教育委員会評価		今回	B	前回	—

※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)

主要施策	3	豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進			
施策の内容	3	家庭・地域・学校における読書活動推進			
事業名 (予算/決算)	[26] 読書活動推進事業 (学校教育課：教務係) (予算：27,984千円 / 決算：26,568千円)				
事業の概要	事業の目的	児童生徒の学習や読書意欲を高めるため、市立図書館や嘉麻市学校図書館協議会等との連携を図りながら、学校図書館の整備や図書司書機能の充実に努めるとともに、組織的、継続的な読書活動の推進に努めます。			
	事業の内容	図書館の管理運営、図書教育の指導補助、図書の受入れ、貸出し業務、書架の整理、廃棄業務、教科用図書関係事務等を行うため、図書司書を配置し、学校図書館の整備、充実に努めています。			
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	学校図書館での一人当たり貸出冊数：小学校 56冊、中学校 15冊			
	実績値 (目標値との比較)	学校図書館での一人当たり貸出冊数：小学校 63冊、中学校 10冊			
	重点課題	学校図書館の管理運営を行うため、学校司書を配置し、図書館の整備、充実に努めます。貸出冊数の目標値を小学校56冊、中学校15冊と定め、読書量を増やすための取組を行います。特に中学校の読書量を増やすための取組が必要です。			
	課題への取組と成果	各学校に学校司書、図書整理員を配置し図書館利用の促進、読書活動の充実に努めました。また、情報の収集・選択・活用能力を育成して、教育課程の展開に寄与する「学習・情報センター」として機能を果たすことができるよう蔵書を充実させ、授業で活用できるよう整備を行いました。その結果、学校図書館での一人当たり貸出冊数は、小学校で目標値を達成できましたが中学校では目標値に達することができませんでした。			
次年度重点課題	児童生徒一人当たりの年間貸出冊数の目標値を小学校58冊、中学校18冊と定め読書量を増やす取組を行います。				
令和3年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C	
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○		
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○		
	※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)				
評価の根拠	小学校では平均すると一人当たりの貸出冊数は目標値を達成できましたが目標値に至っていない小学校もあります。また、中学校は目標値を達成できた中学校があるものの中学校を平均すると目標値に達することができませんでした。今後更に児童生徒の読書意欲を高める必要があります。				
教育委員会評価		今回	B	前回	—

※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)

主要施策	3	豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進		
施策の内容	4	いじめ・不登校問題等の解決に向けた体制の充実		
事業名 (予算/決算)	[27] 適応指導教室(れすとぴあ)推進事業(学校教育課:教務係) (予算:4,413千円/決算:4,413千円)			
事業の概要	事業の目的	心理的又は情緒的理由により登校できない状態にある児童生徒の学校復帰を支援し、不登校児童生徒数の減少に取り組めます。教育相談、体験学習、教科学習、集団生活への適応指導、学校生活及び社会生活に適応できるための助言、援助を行います。		
	事業の内容	教育相談、体験学習、教科学習、集団生活への適応指導、学校生活及び社会生活に適応できるための助言、援助を行います。		
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	適応指導教室(れすとぴあ)の実施:実施 チャレンジ登校の実施:1回以上/学期		
	実績値 (目標値との比較)	適応指導教室(れすとぴあ)の実施:実施 チャレンジ登校の実施:1回以上/学期 (適応指導、教科指導、教育相談を実施)		
	重点課題	学校・担任と連携した個別の支援計画の作成と教科指導・進路指導の支援の充実を図ります。 子育て支援課と連携した支援の充実を図ります。		
	課題への取組と成果	個別の支援計画を作成し、適応指導教室での学習状況を丁寧に学校・担任と情報交換を行ったことにより、チャレンジ登校を実施しながら、学校復帰を目指した支援を行うことができました。 また、子育て支援課と常に児童生徒の状況を交流したことにより、日常の指導に活かすことができました。		
次年度重点課題	学校との連携を密にし、個々の児童生徒のニーズに応じた支援・指導を行います。 家庭・関係機関と連携し、児童生徒の情緒の安定と活力の蓄積を図ります。			
令和3年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C
	実績値評価(当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○	
	課題への取組と成果(当該年度の取組における成果・効果)	○		
	※評価の指標 A:期待以上(高い) B:概ね期待どおり(基準) C:課題あり(低い)			
評価の根拠	<p>コロナ不安により、不登校児童生徒数が増加しました。適応指導教室においても、令和2年度末で15人の在籍数でしたが、令和3年度末には25人の在籍数となりました。そのような状況の中で、2人の指導員が、個に応じた支援計画を作成し、教科指導や進路指導を丁寧に行いました。その結果、中学3年生9人のうち8人が進路選択で自己決定をし、進学をすることができました。</p> <p>また、学校や子育て支援課との連携も十分行われた結果、保護者との信頼関係も良好で、適応指導教室としての機能を十分に果たすことができました。</p>			
教育委員会評価	今回	A	前回	—

※評価の指標 A:期待以上(高い) B:概ね期待どおり(基準) C:課題あり(低い)

主要施策	3	豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進		
施策の内容	4	いじめ・不登校問題等の解決に向けた体制の充実		
事業名 (予算/決算)	[28] 不登校対策支援事業 (学校教育課：教務係) (予算： - / 決算： -)			
事業の概要	事業の目的	個々の不登校児童生徒の状況に応じた支援策等を行い、不登校児童生徒の学校復帰及び社会的自立を目的とします。また、未然防止のための取組を共有し、新規に不登校児童生徒を生まないことを目的とします。		
	事業の内容	各学校の担当者、子育て支援課、適応指導教室と連携をし、個々の不登校児童生徒の状況に応じた支援策等(児童生徒理解・支援シートの活用等)を共有する会議を行います。		
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	不登校児童生徒発生率：全国平均(2.05%)以下 ※令和3年度の数値は未公表のため、令和2年度の数値を使用		
	実績値 (目標値との比較)	不登校児童生徒発生率：3.62%(94名)		
	重点課題	新型コロナウイルス感染症の影響で児童生徒が生活リズムを崩し、容易に学校を休んでしまう傾向にあると考えます。不登校対策会議を定期的開催し、関係機関が連携した組織的な支援を実施することにより、令和3年度の不登校児童生徒数55人以下を目指します。		
	課題への取組と成果	不登校対策会議を実施し、各学校における不登校の予防的取組や不登校児童生徒への支援内容等の情報共有を指導しました。効果のある取組を市内小中学校で共有し、自校の取組の参考とするとともに、校内体制の見直し等を図ることと不登校予防・学校復帰に向けた取組を指導・助言した結果、小学校では不登校児童数の減少(令和2年度37名→令和3年度35名)、中学校では学校復帰者の増加(令和2年度8名→令和3年度25名)につながりました。		
次年度重点課題	不登校予防に向けた早期の取組を充実させるために、不登校対策会議の早期開催と取組の検証を図り、実効性のある効果的な取組を市内小中学校で実施します。			
令和3年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C
	実績値評価(当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)			○
	課題への取組と成果(当該年度の取組における成果・効果)		○	
	※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)			
評価の根拠	目標達成にかかる指標が達成できていませんでした。しかしながら不登校対策の効果的な取組を市内小中学校で共有することで、各小中学校における不登校対策の質的向上(マンツーマン対応、オンラインによる学習支援等)が確認され、小学校では不登校児童数の減少(令和2年度37名→令和3年度35名)、中学校では学校復帰者の増加(令和2年度8名→令和3年度25名)という成果が得られました。不登校児童0の小学校の増加(令和2年度3校→令和3年度4校)も大きな成果です。			
教育委員会評価	今回	B	前回	—

※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)

主要施策	3	豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進			
施策の内容	5	家庭・地域の教育力を高める支援体制の充実			
事業名 (予算/決算)		[29] 郷土を愛する子どもの育成事業 (学校教育課:教務係) (予算: 1, 418千円 / 決算: 544千円)			
事業の概要	事業の目的	ふるさと嘉麻を胸に志を持ち、社会にはばたく子どもたちを育成するため、地域の「ひと・もの・こと」を活用した教育課程を編成・実施します。			
	事業の内容	地域の「ひと・もの・こと」をふるさと学習教材集としてとりまとめ、そうした教材や地域人材等を活用した教育活動を各学校において展開します。			
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	地域教育資源・人材を活用する教育計画作成: 作成 ふるさと学習教材集作成: 第1版配布及び各校区実践			
	実績値 (目標値との比較)	ふるさと学習教育計画作成: 作成 ふるさと学習教材集: 第1版の配布			
	重点課題	各学校においてふるさと学習教育計画を作成します。			
	課題への取組と成果	<p>小中一貫教育導入準備部会を8回開催し、ふるさと学習教材を用いた学習が展開できるために教育課程の内容改善を指導しました。また、共通実践教材の選定や他教科との連携についても協議を行いました。</p> <p>その結果、各学校において、令和4年度からふるさと学習を盛り込んだ教育指導計画書を作成することができました。</p> <p>また各学校で取組んでいるふるさと学習の教材収集を行いました。</p> <p>ふるさと学習教材初年度版に今年度収集した教材を盛り込んだふるさと学習教材集第1版を作成・配布することができました。今年度は新たに5実践を追加するとともに、3実践の修正・改善を図ることができました。</p>			
	次年度重点課題	ふるさと学習教材集第2版の配布			
令和3年度 自己評価	【評価の指標】		A	B	C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)			○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)			○	
	※評価の指標 A: 期待以上 (高い) B: 概ね期待どおり (基準) C: 課題あり (低い)				
評価の根拠	<p>小中一貫教育導入準備部会において、ふるさと学習の実施むけて、各中学校区で実施時期や内容について検討し、次年度実施むけた教育計画書の作成を行いました。</p> <p>ふるさと教材集初年度版をもとに今年度実施したふるさと学習の教材を盛り込んで、ふるさと教材集第1版を作成・配布しました。</p>				
教育委員会評価		今回	B	前回	—

※評価の指標 A: 期待以上 (高い) B: 概ね期待どおり (**基準**) C: 課題あり (低い)

主要施策	3	豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進		
施策の内容	5	家庭・地域の教育力を高める支援体制の充実		
事業名 (予算/決算)	[30] 家庭教育支援事業 (生涯学習課：社会教育係) (予算：276千円 / 決算：176千円)			
事業の概要	事業の目的	子育て家庭の孤立を防ぐとともに、子育ての不安や負担感・行き詰まり感の解消を図る事業の実施や、地域活動を通して子育て家庭と地域の人たちの交流や保護者同士の交流を図り、地域ぐるみで子育て家庭を支援する体制づくりを目指します。		
	事業の内容	①メディアが及ぼす影響・対策に関する啓発活動等 (メディア講座) ②屋外体験事業 (ミニプレーパーク事業) ③家庭教育支援講座 (子育て講座)		
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	メディア啓発講座実施校数 (小学校)：6校 メディア啓発講座実施校数 (中学校)：3校		
	実績値 (目標値との比較)	メディア啓発講座実施校数 (小学校)：0校 メディア啓発講座実施校数 (中学校)：3校		
	重点課題	コロナ対策を考慮した事業の企画・立案・実施を行う必要があります。		
	課題への取組と成果	各講座において、実施時間短縮や回数を増やして1回の参加人数を減らすなど、感染対策を講じ実施しました。 ・メディア啓発講座〔7回：対象者162人〕 ・屋外体験事業 ミニプレーパーク〔3回：169人〕 のびのびプレーパーク〔4回：31人〕 ・家庭教育支援講座 ポジティブ・ディシプリン〔1回：8人〕 防災子育て講座〔2回：52人〕		
次年度重点課題	SNSでのいじめ問題が発生していることから、メディアに関する啓発を広範に行っていく必要があります。			
令和3年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○	
	※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)			
評価の根拠	<p>メディア啓発講座を入学説明会時に実施しましたが、感染対策で会場実施が中止となった学校については資料配布による啓発としました。</p> <p>屋外体験事業について、新たなメニューを企画し開催準備を行っていましたが、緊急事態宣言等により中止しました。本メニューの次年度以降のスムーズな開催に向け、関係機関と調整を行いました。</p> <p>感染対策により学校側の受入れが難しい部分もあり目標値を達成できませんでしたが、活動制限期間を除き、感染対策を講じて各講座を実施できたことから総合的に勘案しB評価としています。</p>			
教育委員会評価	今回	B	前回	—

※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)

主要施策	3	豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進			
施策の内容	5	家庭・地域の教育力を高める支援体制の充実			
事業名 (予算/決算)		[31] 青少年健全育成事業 (生涯学習課：社会教育係) (予算：1,310千円 / 決算：1,114千円)			
事業の概要	事業の目的	青少年問題に関わる関係機関や団体はもとより、学校、家庭、地域が連携をより強化し、社会全体の取組として青少年の健全育成を図ります。			
	事業の内容	①少年相談センター業務 ②少年補導委員委嘱による巡回指導			
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	少年補導委員研修会開催数：1回 巡回指導回数(年間)：24回			
	実績値 (目標値との比較)	少年補導委員研修会開催数：0回 巡回指導回数(年間)：24回			
	重点課題	相談業務に対応する職員のスキルアップを図る必要があります。			
	課題への取組と成果	<ul style="list-style-type: none"> 少年相談センター業務 電話相談件数は延べ7件であり、相談者に寄り添った丁寧な対応を行いました。スキルアップに関する研修について情報収集を行いました。相応の研修がなかったため、自己研修と業務に対する職員間の認識の共有を図りました。 少年補導委員委嘱による巡回指導 少年補導委員を委嘱し、継続的な支援を行うことにより、巡回指導の充実を図ることができました。 			
次年度重点課題	少年補導委員への継続的な支援を行います。また、活動を行う上で効果的な研修を実施します。				
令和3年度 自己評価	【評価の指標】		A	B	C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)			○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)			○	
	※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)				
評価の根拠	<p>少年補導委員を委嘱し、年間を通して定期的な巡回指導を行うことにより、重大事案の発生抑止に繋がったものと考えます。</p> <p>少年補導委員を対象とした研修会はコロナ対策により開催できませんでしたが、巡回指導については目標値を達成できたことからB評価としています。</p>				
教育委員会評価		今回	B	前回	—

※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)

主要施策	3	豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
施策の内容	6	男女共同参画教育の推進
事業名 (予算/決算)	[32] 学校における男女共同参画推進事業 (学校教育課：教務係) (予算： - / 決算： -)	
事業の概要	事業の目的	男女共同参画の意識づくりをする上で、家庭や学校・地域での教育が重要であり、「嘉麻市男女共同参画推進条例」の理念に基づき、男女共同参画の趣旨や必要性について、教育を通して意識改革と啓発を促進します。
	事業の内容	学校教育の場においては、指導者の共通認識のもとに男女平等の教育の体制をつくり、男女平等の視点から習慣・行事等の見直し、固定的性別役割分担にとらわれない指導を進めます。
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	男女共同参画に関する授業の実施：13校
	実績値 (目標値との比較)	男女共同参画に関する授業の実施：13校 (全校で実施) 100%
	重点課題	「嘉麻市男女共同参画推進条例 学ぼうそして行動しよう」の冊子を活用した授業づくりや各教科等の年間指導計画における活用の位置づけを推進するとともに、教職員研修 (校内研修) の全校実施を推進します。
	課題への取組と成果	「嘉麻市男女共同参画推進条例 学ぼうそして行動しよう」の冊子を活用した授業づくりや男女共同参画を意識したカリキュラム・マネジメントを推進するよう各学校に働きかけを行いました。 その結果、小学校は家庭科や社会科、理科、生活科、学級活動等で男女共同参画に関する授業を実施しています。中学校でも社会科、道徳科等で男女共同参画に関する授業を実施しています。 また、学校の教職員研修 (校内研修) で、望ましい人間関係づくり等、男女共同参画に関する研修も実施しています。
	次年度重点課題	男女共同参画に関する授業等について、更に積極的に推進していくよう各学校に働きかける必要があります。
令和3年度 自己評価	【評価の指標】	A B C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	○
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)	○
	※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)	
評価の根拠	男女共同参画に関する授業の実施は、全小・中学校で実施しています。各学校での教職員等の研修 (講師研修) は、全小・中学校で実施しています。	
教育委員会評価		今回 B 前回 ー

※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (**基準**) C：課題あり (低い)

主要施策	3	豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進		
施策の内容	6	男女共同参画教育の推進		
事業名 (予算/決算)	[33] 地域社会における男女共同参画推進事業 (生涯学習課：社会教育係) (予算： — 千円 / 決算： — 千円)			
事業の概要	事業の目的	家庭の中や地域活動における固定的な性別役割分担意識に基づく慣習・慣行の見直しを促進し、男女共同参画の啓発を行うとともに、講座を実施する中で性別役割分担意識の解消に繋がります。		
	事業の内容	社会教育における事業や講座を通して、男女共同参画の趣旨や必要性について意識啓発を行うとともに、性別役割分担意識の解消に努めます。		
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	啓発活動の実施：5回		
	実績値 (目標値との比較)	啓発活動の実施：1回		
	重点課題	男性保護者も含め、家族での参加を促すような事業・講座の実施を検討し、家庭における男女共同参画を推進する必要があります。		
	課題への取組と成果	コロナ対策による主催事業の中止や時間短縮、また、社会教育関係団体等においては活動の自粛や総会等の書面開催などにより、男女共同参画についての啓発の機会を設けることができず、1回の実施となりました。		
次年度重点課題	男女共同参画推進課と連携し、男女共同参画の意識改革及び啓発を推進します。			
令和3年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)			○
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)			○
	※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（ 基準 ） C：課題あり（低い）			
評価の根拠	<p>家庭教育支援事業の「防災子育て講座」において、男女を問わず家庭で取組む意識啓発を行いました。</p> <p>その他の体験事業においては、少しずつ男性保護者の参加も増えてきましたが、依然として女性保護者の割合が多く、事業メニューやPRの方法を検討し、家族で参加したいと思える講座を実施するとともに、その先の啓発に繋がっていくことが課題となっています。</p> <p>以上のことからC評価としています。</p>			
教育委員会評価	今回	C	前回	—

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（**基準**） C：課題あり（低い）

主要施策	4	生涯学習の実現を目指す社会教育の推進			
施策の内容	1	生涯学習関係機関、団体との連携・協力体制の整備			
事業名 (予算/決算)		[34] 社会教育関係団体等育成事業 (生涯学習課：社会教育係) (予算：4,920千円 / 決算：3,519千円)			
事業の概要	事業の目的	社会教育関係団体の主体的・自主的活動が活発に行われることにより、地域の社会教育活動の活性化を図ります。			
	事業の内容	①社会教育関係団体への指導・助言 ②適正な補助金の交付			
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	支援団体数：9団体			
	実績値 (目標値との比較)	支援団体数：6団体			
	重点課題	新型コロナウイルス感染症対策に伴う事業実施の方策を含め、自立に向けた指導助言を継続的に行う必要があります。			
	課題への取組と成果	各団体の総会等における書面開催の提案など、コロナ対策に関する情報提供と助言を行いました。また、各団体の定例会議等において、自主的な活動に向けた指導・助言を行いました。 コロナ対策のため、事業・イベントを自粛した団体もあり、補助金交付団体数は9団体のうち、6団体でした。また、事業縮減に伴う補助金の使途について助言を行いました。			
次年度重点課題	団体構成者の高齢化・固定化など、各団体の実情に応じた指導・助言を行う必要があります。				
令和3年度 自己評価	【評価の指標】		A	B	C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)			○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)			○	
	※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)				
評価の根拠		社会教育関係団体については、指導・助言を行うとともに、広報誌等における事業周知などのサポートを行いました。 目標値に達していませんが、補助対象の9団体中、3団体については感染拡大防止対策を考慮した事業の中止・自粛であるため、致し方ないものと考えます。 以上のことからB評価としています。			
教育委員会評価		今回	B	前回	—

※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)

主要施策	4	生涯学習の実現を目指す社会教育の推進
施策の内容	2	学習機会の提供及び学習成果の活用促進
事業名 (予算/決算)	[35] 社会教育施設整備事業 (生涯学習課：社会教育係) (予算：47,662千円 / 決算：36,524千円)	
事業の概要	事業の目的	地域の生涯学習の拠点である社会教育施設の適切な維持管理運営を行い、市民の教育・文化の向上と生きがいつくりにつなげます。
	事業の内容	社会教育施設の定期的な点検や修繕などの維持管理を行います。

令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	施設利用者数：24,600人
	実績値 (目標値との比較)	施設利用者数：41,318人
	重点課題	経常経費のほか、老朽化に伴う突発的な故障等による修繕費の支出も増加傾向にあるため、廃止を含めた施設の運営管理を検討する必要があります。
	課題への取組と成果	経年劣化に伴う不慮の故障等が発生しましたが、経費節減のため必要最小限かつ効果的な修繕に努め、市民に教育・文化活動や発表を行う場と機会を提供することができました。また、保守点検報告書を精査し、修繕に係る年次計画の見直しを行いました。 個別施設の見直し計画・方針に基づく廃止予定施設の今後の運営管理について検討を行いました。
次年度重点課題	必要最小限の修繕等により適正な維持管理を行います。また、廃止を含めた施設の運営管理を継続して協議する必要があります。	

令和3年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	○		
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○	
	※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（ 基準 ） C：課題あり（低い）			
評価の根拠	<p>コロナ対策による施設閉館や、利用時間の短縮、利用人数の制限及び利用の自粛などはありましたが、安心して利用できるよう感染対策を講じた衛生・安全管理を行いました。目標値を達成することができたため、実績値評価はAとしています。</p> <p>選挙の投票場などで利用していた施設について、廃止予定である一部施設においては、関係課と会場変更の協議を行いました。このことから、課題への取組と成果はBとしています。</p>			

教育委員会評価	今回	B	前回	—
----------------	-----------	----------	-----------	----------

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（**基準**） C：課題あり（低い）

主要施策	4	生涯学習の実現を目指す社会教育の推進		
施策の内容	2	学習機会の提供及び学習成果の活用促進		
事業名 (予算/決算)	[36] 生涯学習推進事業 (生涯学習課：社会教育係) (予算：26,731千円 / 決算：24,556千円)			
事業の概要	事業の目的	市民が学習した成果を地域で活用し、更なる学びや生きがいに繋がる「知の循環型社会」を構築することにより、お互いに学び合い、生きがいのある豊かな地域社会をつくります。		
	事業の内容	①ボランティア人材バンクの活用 ②内外部研修による職員の資質向上		
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	内部研修会の実施：2回 人材バンク登録者数：270人 外部研修会への参加：5回 人材バンク派遣回数：75回		
	実績値 (目標値との比較)	内部研修会の実施：1回 人材バンク登録者数：233人 外部研修会への参加：5回 人材バンク派遣回数：6回		
	重点課題	・周知を含めた人材バンクの活用促進を行う必要があります。 ・内部研修会の実施と外部研修会への参加により職員の資質向上を図る必要があります。		
	課題への取組と成果	・内外部研修による職員の資質向上 内部研修については、課内研修を実施しました。コロナ対策により参集形式の実施が困難であったため、係単位等の小グループによるテキストを活用しての研修としました。また、社会教育総合センターや筑豊教育事務所主催の外部研修への参加を促進しました。 ・ボランティア人材バンクの活用 ホームページでの周知と学校に向けた人材バンクの活用についての周知を行いました。		
次年度重点課題	人材バンクの活用促進と生涯学習関係職員の資質向上を図ります。			
令和3年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)			○
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○	
	※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)			
評価の根拠	人材バンク登録者は高齢者が多数を占めていることもあり、各学校においては感染対策により活用・受入れが難しい部分もあったことから、依頼件数が減少し派遣回数は6回にとどまり、目標値を大幅に下回るものとなりました。 外部研修の周知・参加促進は遅滞なく行いましたが、内部研修についてはコロナ禍において日程調整が難しく、課内全体での研修形式を少数単位での実施としました。 このことから、実績値評価をC、課題への取組と成果をBとしています。			
教育委員会評価	今回	B	前回	—

※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (**基準**) C：課題あり (低い)

主要施策	4	生涯学習の実現を目指す社会教育の推進			
施策の内容	2	学習機会の提供及び学習成果の活用促進			
事業名 (予算/決算)	[37] 公立公民館・自治公民館連携強化推進事業 (生涯学習課：中央公民館係) (予算：15,036千円 / 決算：13,758千円)				
事業の概要	事業の目的	公立公民館と自治公民館の情報共有による公民館活動の活性化と自治公民館等への活動補助や施設の維持管理等への支援を行うことを目的としています。			
	事業の内容	①公民館関係者を対象とした研修会や会議の開催 ②補助金の交付			
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	研修会等の開催及び参加：4回 地区公民館長会議開催：12回 分館長会議の開催：2回 自治公民館長会議の開催：2回 補助金の交付：12,118,000円			
	実績値 (目標値との比較)	研修会等の開催及び参加：1回 地区公民館長会議開催：12回 分館長会議の開催：2回 自治公民館長会議の開催：0回 補助金の交付：8,195,552円			
	重点課題	分館方式移行については、地元協議を行う前に、問題点を整理する必要があります。			
	課題への取組と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において、タイミングを見図りながらオンラインや動画視聴を活用した研修会を開催することができ、公民館事業に携わる者としての力量を高めることができました。 ・コロナ禍において、自治公民館長会議については開催することができず、公立公民館と自治公民館との情報共有を図ることができませんでした。 ・分館運営や自治公民館活動への補助金交付や地元所有の公民館施設等の修繕に係る経費の一部を補助し地域活動への経済的支援ができました。 ・嘉麻市公民館基本計画に基づく分館方式移行について問題点の整理はできましたが、自治公民館長会議等が開催できなかったことから地元の意見等を聞くことができませんでした。 			
次年度重点課題	自治公民館長会議を開催して情報収集や課題把握に努め、自治公民館活動の活性化を図りながら、嘉麻市公民館基本計画の分館方式移行に係る問題点を整理した内容についても意見を徴し、実施計画を策定する必要があります。				
令和3年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C	
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○		
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○		
	※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)				
評価の根拠	新たな取組として、オンラインや動画視聴などを活用した研修会等を開催するなど、コロナ禍においても目標値に対して8割の事業が実施できました。 また、重点課題としている嘉麻市公民館基本計画に基づく分館方式移行への問題点についても整理ができたことなどを評価しています。				
教育委員会評価		今回	B	前回	—

※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)

主要施策	4	生涯学習の実現を目指す社会教育の推進			
施策の内容	2	学習機会の提供及び学習成果の活用促進			
事業名 (予算/決算)	[3 8] 公民館活動活性化推進事業 (生涯学習課 : 中央公民館係) (予算 : 7 6, 9 7 6 千円 / 決算 : 6 7, 5 7 4 千円)				
事業の概要	事業の目的	地域住民相互の交流と教養の向上、さらには健康増進を図り、地域住民の生きがいをづくり、地域コミュニティの醸成を目的とします。			
	事業の内容	教育・文化に関する各種事業や地域住民参加型の事業を実施します。			
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	地域住民との協働事業 : 1 6 事業 公民館講座・教室等 : 1 8 講座 青少年体験活動推進事業 : 1 事業			
	実績値 (目標値との比較)	地域住民との協働事業 : 1 1 事業 公民館講座・教室等 : 1 3 講座 青少年体験活動推進事業 : 0 事業			
	重点課題	新型コロナウイルス感染拡大状況を見図りながら、新しい生活様式を取り入れた事業についても実施する必要があります。			
	課題への取組と成果	新型コロナウイルス感染防止対策に伴う緊急事態措置及びまん延防止等重点措置の発令期間中の事業開催は見送りましたが、期間外においては感染防止対策を講じ実施しました。			
次年度重点課題	コロナ禍により各種団体等の活動も停止したことから、このまま活動が衰退するようであれば、活動への支援が必要になります。				
令和3年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C	
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○		
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○		
	※評価の指標 A : 期待以上 (高い) B : 概ね期待どおり (基準) C : 課題あり (低い)				
評価の根拠	新型コロナウイルス感染拡大状況を見図りながら、目標値に対して7割の事業が実施できたことを評価しています。				
教育委員会評価		今回	B	前回	—

※評価の指標 A : 期待以上 (高い) B : 概ね期待どおり (**基準**) C : 課題あり (低い)

主要施策	4	生涯学習の実現を目指す社会教育の推進
施策の内容	3	図書館の利用促進
事業名 (予算/決算)	[39] 図書館施設管理運営事業 (生涯学習課：図書館係) (予算：14,413千円 / 決算：12,876千円)	
事業の概要	事業の目的	図書館施設及び図書館システムを適切に管理運営することにより、読書環境の整備・充実を図り、快適かつ安心して利用できる図書館サービスを提供することを目的とします
	事業の内容	①図書館施設の維持管理及び図書館システムの更新 ②選書等資料の管理 ③配本車の巡回 ④移動図書館車の運行 ⑤図書館だよりの発行 など
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	施設利用者数：56,000人 年間貸出冊数：187,000冊 市民一人当たり貸出冊数：4.68冊 移動図書館車の貸出冊数：17,000冊
	実績値 (目標値との比較)	施設利用者数：33,520人 年間貸出冊数：113,312冊 市民一人当たり貸出冊数：2.99冊 移動図書館車の貸出冊数：7,586冊
	重点課題	令和4年度からの指定管理者制度導入に向けて、条例改正及び業者選定等を行い、これまでの図書館サービスはもちろん、提案いただく新しい視点での利用者サービスも導入し、快適に利用していただける読書環境づくりを図ります。
	課題への取組と成果	令和4年度の重点課題である指定管理者制度導入については、6月議会での条例改正議決後、プロポーザル方式による業者選定を行い、12月議会での承認を受けて株式会社図書館流通センターに決定しました。1月から協議を重ね、当初の予定どおり4月から管理運営業務を委託しています。 また図書館運営においては、緊急事態宣言等に伴う施設臨時休館期間に、臨時窓口を開設することで利用者の読書環境の確保に努めました。
	次年度重点課題	令和4年度から嘉麻市立図書館の管理運営を指定管理業者へ委託するため、市と指定管理業者とで行う施設管理及び図書館運営が問題なく行われるよう細かな連絡調整を図ります。
令和3年度 自己評価	【評価の指標】	A B C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)	○
	※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)	
評価の根拠	年間で3か月ほど臨時休館したこともあり、全ての指標において目標値を大幅に下回っていることから、実績値評価はC評価としています。 しかし、臨時休館中にも臨時窓口を設置し、予約資料のみ貸出するなどコロナ禍の嘉麻市立図書館においても可能なサービスを検討、実施することで、利用者の方へ少しでも読書環境を提供できたことから各指標も少しずつ前年度からは好転しています。その点から、課題への取組と成果についてはB評価とし、総合評価もB評価にしています。	
教育委員会評価		今回 B 前回 ー

※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (**基準**) C：課題あり (低い)

主要施策	4	生涯学習の実現を目指す社会教育の推進			
施策の内容	3	図書館の利用促進			
事業名 (予算/決算)	[40] 読書活動推進事業 (生涯学習課：図書館係) (予算：373千円 / 決算：235千円)				
事業の概要	事業の目的	おはなし会・講座・読書講演会等、市民の読書活動のきっかけづくりとなる事業を開催し、読書活動の推進及び図書館利用の促進を図ることを目的とします。			
	事業の内容	①ブックスタート事業 ②絵本ですくすく講座 ③赤ちゃんタイム ④朝の読書活動支援 (小学校) ⑤ブックトーク (小・中学校、土曜未来塾) ⑥定例おはなし会及びおはなし工作会 ⑦夏休みイベント ⑧一日図書館員 ⑨職場体験の受入れ ⑩図書館教養講座 ⑪読書講演会 ⑫映画会			
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	おはなし会1回当たり参加者数 (乳幼児及び児童向け)：10人 読書講演会参加者数：50人 ブックスタート配布率：100%			
	実績値 (目標値との比較)	おはなし会1回当たり参加者数 (乳幼児及び児童向け)：3.95人 読書講演会参加者数：未実施 ブックスタート配布率：100%			
	重点課題	新しい生活様式のなかで、人数を制限しながらも、参加された方が充実した時間を過ごし、読書への興味関心をもつきっかけとなるような機会を提供できるようテーマや開催方法等を見直し、少人数でも効果的な事業となるよう検討していきます。			
	課題への取組と成果	おはなし会は会場の広さや絵本に見える距離等を考えた定員を、少人数に設定し開催しています。参加された方からはコロナ禍の現在において、子どもと一緒に安心して参加できるとの感想もいただいております。読書活動へのきっかけづくりのみならず、子育て世代の交流の場としての役割も果たしています。 読書講演会については、美術館の企画展示と連携した講演を計画しましたが、開催日が臨時休館期間と重なったため中止としました。			
次年度重点課題	令和4年度から嘉麻市立図書館の管理運営を指定管理業者へ委託するため、目標に沿った読書推進事業が行われるよう、指定管理業者と細かな連絡調整を図ります。				
令和3年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C	
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)			○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○		
	※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)				
評価の根拠	施設の臨時休館期間のみならず、開館後においても感染防止対策のため定例のおはなし会の開催も見合わせた時期が長く、参加者の減少傾向が続いており、ブックスタート配布率を除く指標において目標値を大幅に下回っているため、実績値評価はC評価としています。 おはなし会が定期的に参加しづらい現状であることや広報手段への課題もあり、参加者増へは繋がらないものの、カウンターでの利用者への細かい声掛けは積極的に行っていることから、課題への取組についてはB評価とし、総合評価もB評価としています。				
教育委員会評価		今回	B	前回	—

※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)

主要施策	4	生涯学習の実現を目指す社会教育の推進			
施策の内容	3	図書館の利用促進			
事業名 (予算/決算)	[41] 図書ボランティア養成及び活動支援事業 (生涯学習課：図書館係) (予算：150千円 / 決算：0千円)				
事業の概要	事業の目的	図書館事業の推進に必要な不可欠な図書ボランティアの養成、活動支援を行うことを目的とします。			
	事業の内容	新規ボランティアの養成及び既存ボランティアの支援並びに嘉麻市図書ボランティア連絡協議会の活動支援を行っています。 ①読書ボランティアスキルアップ研修 ②読書ボランティア養成講座 ③嘉麻市図書ボランティア連絡協議会（総会、研修会開催支援等）			
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	ボランティア養成講座参加者数：8人 ボランティアスキルアップ講座参加者数：30人 ボランティア活動参加者数：60人			
	実績値 (目標値との比較)	ボランティア養成講座参加者数：未実施 ボランティアスキルアップ講座参加者数：未実施 ボランティア活動参加者数：63人			
	重点課題	現在活動されているボランティアの皆様のご活動状況について連絡調整を図り、要望等調査しながら、活動再開時期と合わせて、必要とされる活動及びスキルアップの機会を提供する必要があります。			
	課題への取組と成果	ボランティアの皆様へ活動状況等については連絡をとっていますが、三密を避ける状況が続いていることもあり、読み聞かせ等の活動再開には、まだ時間がかかるようです。 そんな中、布絵本等を作成される活動は再開されており、感染対策を講じながら活動されています。活動を再開される方々へは、不安のないよう感染対策への協力等も含めた支援を行っています。			
次年度重点課題	令和4年度から嘉麻市立図書館の管理運営を指定管理業者へ委託するため、市と指定管理業者と協力し、継続的なボランティア活動ができるような支援体制の強化を図ります。				
令和3年度 自己評価	【評価の指標】		A	B	C
	実績値評価（当該年度の目標値に対する達成度・進捗度）				○
	課題への取組と成果（当該年度の取組における成果・効果）			○	
	※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（基準） C：課題あり（低い）				
評価の根拠	<p>ボランティア活動再開の見通しが立っていない現状では、各講座も開催することが難しく、全ての講座が未実施のため実績値評価はC評価としています。</p> <p>コロナ禍の現状では、まず安全に安心してボランティア活動ができる環境づくりが必要であり、現状のまま講座等開催しても効果、効率性ともに見込まれず、現段階で可能な支援は情報提供や連絡調整等であり、活動を再開されるサークル等へ個別に支援することが有効であると考えことから、課題への取組と成果についてはB評価とし、総合評価もB評価としています。</p>				
教育委員会評価		今回	B	前回	—

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（基準） C：課題あり（低い）

主要施策	5	体力及び運動能力向上の推進
施策の内容	1	スポーツによる地域の活性化
事業名 (予算/決算)	[42] スポーツコミュニティ創造事業 (スポーツ推進課：プロジェクトK・スポーツ推進係) (予算：7,322千円 / 決算：4,629千円)	
事業の概要	事業の目的	スポーツと健康運動を通じて、市民一人ひとりの潜在的能力の向上を図るとともに、地域における市民の主体的な活動を促進し、地域力が向上することを目的とします。
	事業の内容	スポーツを通じた地域の主体的かつ継続的な取組を促進するため、リズム体操教室等を市主催だけではなく、外部のスポーツ指導者と連携し、地域に出向いて実施します。また、教室の運営の仕方などを指導し、誰もが気軽に地域でスポーツができるよう、自主的に教室を開催できるような仕組みを形成します。
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	スポーツ指導参加者：700人 スポーツによるコミュニティ育成支援団体数：13団体 各教室開催数：48回
	実績値 (目標値との比較)	スポーツ指導参加者：864人 スポーツによるコミュニティ育成支援団体数：18団体 各教室開催数：66回
	重点課題	新型コロナウイルスの感染拡大防止を徹底しながら、ふれあい・いきいきサロンや公民館事業など地域のイベントでの普及活動を行います。
	課題への取組と成果	新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言や、まん延防止等重点措置が発令され、感染拡大防止のために中止となることもありました。限られた機会を活かし、ふれあい・いきいきサロン出前講座、学童保育所出前講座、リズム体操教室などを実施しました。 ・サロン出前講座：16団体、平日27回、土日1回、参加者298人 ・学童保育所出前講座：市内5学童保育所、6回実施、参加者84人 ・リズム体操教室：27回実施、参加者429人 ・悩み解消！トレーニング教室：3回実施、参加者10人 ・解放学級出前講座：1回実施、参加者10人 ・サルビア大学出前講座：1回実施、参加者33人
次年度重点課題	新型コロナウイルスの感染状況を見極めながら、教室や出前講座を実施し、市民が自主的に地域での活動を行えるよう支援します。	
令和3年度 自己評価	【評価の指標】	A B C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	○
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)	○
※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)		
評価の根拠	新型コロナウイルス感染拡大により、多くの事業やイベントが中止となりましたが、感染防止対策を徹底し、対象を拡充しながら実施したことにより、スポーツ指導参加者、スポーツによるコミュニティ育成支援団体数、各種教室開催数等、実績値は目標数を上回る成果をあげていますので、実績値評価はA、課題への取組と成果もA評価としています。	
教育委員会評価		今回 A 前回 —

※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)

主要施策	5	体力及び運動能力向上の推進		
施策の内容	1	スポーツによる地域の活性化		
事業名 (予算/決算)	[43] スポーツ大会誘致・スポーツ大会支援事業 (スポーツ推進課：施設管理運営係) (予算： — 千円 / 決算： — 千円)			
事業の概要	事業の目的	スポーツに関係する多くの人々が嘉麻市を訪れ、スポーツを行い、観るとともに地域の人々と交流し、本市の豊富な自然環境と観光資源に触れ、親しんで帰ってもらうことで、地域活性化につなげることを目的とします。		
	事業の内容	スポーツ大会やスポーツ合宿の機会を活用するため、関係機関と連携して、交流人口の増加と地域の活性化につなげます。 また、大会の支援を行い、市民の運営や企画への参加を促します。		
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	大会・合宿による市外利用者数(交流人口)：11,700人 支援大会の参加者数：7,400人		
	実績値 (目標値との比較)	大会・合宿による市外利用者数(交流人口)：6,296人 支援大会の参加者数：5,144人		
	重点課題	新型コロナウイルス感染症の影響により、引き続き利用者の減少が見込まれる中、いつでも利用者を安全・安心して受け入れができるよう、衛生管理や安全管理をする必要があります。		
	課題への取組と成果	令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、例年行われている嘉麻シティマラソンが令和2年度に引き続き開催中止となりましたが、全国高校駅伝福岡県大会は無観客で開催されました。 その他の大会等においても自粛により中止や延期が相次ぐなか、幅広く施設情報を提供するため、休館情報や開館情報等をホームページや貼り紙、SNSで発信するなどし利用者への情報提供に努めました。 また、感染症対策を徹底し施設内の衛生管理に努めました。		
次年度重点課題	令和4年度は、嘉穂総合体育館特定天井改修工事が実施されることから、誘致をしているフットサル県リーグへの連絡調整等を行っていく必要があります。 また、引き続き新型コロナウイルスの影響を受けることが想定される中、大会の誘致・支援をどのように行っていくかが課題となります。			
令和3年度 自己評価	【評価の指標】	A B C		
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	○		
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)	○		
	※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)			
評価の根拠	令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、嘉麻シティマラソンが開催中止となったほか、その他の大会等においても自粛により中止や延期が相次いだこともあり、交流人口は、6,296人、大会参加者数は5,144人となり、目標とする大会・合宿による市外利用者数(交流人口)11,700人、支援大会の参加者数7,400人を下回ったことから、実績値評価はC評価としています。 課題への取組と成果については、利用者を安全・安心して受け入れができるよう、衛生管理や安全管理を徹底して行ったことからB評価としています。			
教育委員会評価	今回	B	前回	—

※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)

主要施策	5	体力及び運動能力向上の推進		
施策の内容	2	スポーツ環境の整備		
事業名 (予算/決算)	[44] スポーツ環境創成事業 (スポーツ課：プロジェクトK・スポーツ推進係) (予算：0千円 / 決算：0千円)			
事業の概要	事業の目的	家庭や学校、自然の中など身近な場所での運動を進め「市内のいたるところがスポーツ環境であること」という意識改革を目的とします。		
	事業の内容	自然豊かで文化性に満ちた市内の環境を再発見するとともに、効果的なウォーキングの仕方や、コースの情報提供を行うことで市民の利用を促進します。また、子どもたちの成長を促し、心に刺激を与えるような環境づくりを目指し、アイデアに満ちたスポーツ環境を整備します。		
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	ホームページにおける軽運動等の情報掲載件数：2件 脳機能発達を目指した生活環境改善に関する研修会の開催数：2回 ジョギング・ウォーキングイベント開催件数：1件		
	実績値 (目標値との比較)	ホームページにおける軽運動等の情報掲載件数：2件 脳機能発達を目指した生活環境改善に関する研修会の開催数：0回 ジョギング・ウォーキングイベント開催件数：0件		
	重点課題	新型コロナウイルスの感染状況などを考慮しながら、ジョギング・ウォーキングイベントの開催など市民の意識改革につながる取組が必要です。		
	課題への取組と成果	新型コロナウイルス感染拡大により、脳機能発達を目指した生活環境改善に関する研修会やジョギング・ウォーキングイベントが中止となりました。 嘉麻市ホームページにおいてリフレッシュヨガ教室や悩み解消！トレーニング教室についての情報を掲載しました。 ・悩み解消！トレーニング教室情報掲載：1件 ・リフレッシュヨガ教室情報掲載：1件		
次年度重点課題	新型コロナウイルス感染症に対応した事業実施を図り、脳機能発達を目指した生活環境改善に関する研修会やジョギング・ウォーキングイベントを開催します。			
令和3年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)			○
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○	
※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（基準） C：課題あり（低い）				
評価の根拠	ホームページにおける軽運動等の情報掲載件数は目標値を達成しましたが、脳機能発達を目指した生活環境改善に関する研修会やジョギング・ウォーキングイベントは、目標値を下回っているため実績値評価はCであります。しかしながら、研修会やイベントは新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言や、まん延防止等重点措置が発令され、感染拡大防止のため、やむを得ず中止となりました。よって、課題への取組と成果はB評価としています。			
教育委員会評価	今回	B	前回	—

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（基準） C：課題あり（低い）

主要施策	5	体力及び運動能力向上の推進			
施策の内容	2	スポーツ環境の整備			
事業名 (予算/決算)	[45] 社会体育施設管理運営事業 (スポーツ推進課：施設管理運営係) (予算：299,124千円 / 決算：217,759千円)				
事業の概要	事業の目的	市民のニーズに応じた、より快適なスポーツ活動の場を提供することを目的としています。			
	事業の内容	スポーツ施設の整備を効果的かつ効率的な管理運営と、市民ニーズに対応するため施設の整備などの検討を行い、適正化を図ります。			
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	社会体育施設利用者数：347,800人			
	実績値 (目標値との比較)	社会体育施設利用者数：197,637人			
	重点課題	サルビアパーク空調改修工事や碓井屋内ゲートボール場照明取替工事等大規模改修の実施にあたり、施設の利用停止や休館を行う際に利用者への支障が少ない工事内容の検討・スケジュールの調整を行う必要があります。			
	課題への取組と成果	碓井屋内ゲートボール場照明取替工事については、新型コロナウイルス感染拡大に伴う施設の休館期間中に工事を実施し、利用者への支障がない工期の調整を行いました。サルビアパーク空調改修工事は、半導体部品の世界的不足に伴う設備機器の納品の遅れにより、工事が令和4年度に繰り越しとなりました。			
次年度重点課題	令和4年度は、嘉徳総合体育館特定天井改修工事や繰越となったサルビアパーク空調改修工事、稲築屋内球技場照明取替工事が実施されることに伴い、工事期間中の施設利用者への事前の周知や定期利用団体等の他の体育施設への利用の調整を行っていく必要があります。				
令和3年度 自己評価	【評価の指標】		A	B	C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)				○
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)			○	
	※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)				
評価の根拠	令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の拡大による、施設休館や利用時間の短縮、利用の自粛などがありました。感染症対策を徹底し施設の環境整備を行いました。 令和3年度の施設の利用者数は、197,637人と目標の347,800人を下回ったことから、実績値評価はC評価としています。 課題への取組と成果については、碓井屋内ゲートボール場照明を水銀灯からLED照明への取替工事について、休館期間中に工事を行う等利用者に支障のないスケジュールの調整を行ったことからB評価としています。				
教育委員会評価		今回	B	前回	—

※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)

主要施策	5	体力及び運動能力向上の推進			
施策の内容	3	生涯スポーツの推進			
事業名 (予算/決算)	[46] プロジェクトK事業 (スポーツ推進課：プロジェクトK・スポーツ推進係) (予算：4,404千円 / 決算：1,625千円)				
事業の概要	事業の目的	乳幼児から高齢者、障がい者に至るすべての市民を対象に、誰もが幸福で豊かな生活を営むことができるよう、脳科学、認知科学などに基づいたコーディネーショントレーニングを導入することにより、体力・運動能力の発達だけでなく、知的能力の発達、情緒的な安定や創造性豊かな人格形成等を図ることを目的とします。			
	事業の内容	乳幼児から高齢者、障がい者に至るすべての市民を対象とし、各年齢層に応じたコーディネーショントレーニングのプログラムを構築します。そのため、市内の乳幼児施設職員をはじめ、小・中・高等学校の教員や障がい者施設職員などに研修会を開催するなど、指導者を育成・発掘し、関係機関と連携しながらプログラムの普及を図ります。			
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	コーディネーショントレーニング指導者研修会開催数：3回 乳幼児施設コーディネーショントレーニング導入率：70% 小学校コーディネーショントレーニング導入校数：8校 中学校コーディネーショントレーニング導入校数：5校			
	実績値 (目標値との比較)	コーディネーショントレーニング指導者研修会開催数：4回 乳幼児施設コーディネーショントレーニング導入率：64% 小学校コーディネーショントレーニング導入校数：8校 中学校コーディネーショントレーニング導入校数：5校			
	重点課題	新型コロナウイルスの感染状況を考慮しながら、小学校教員用指導書の作成は継続し、高齢者へのコーディネーショントレーニングの普及、乳幼児施設への導入率向上が課題です。			
	課題への取組と成果	小学校新学習指導要領の各領域区分に応じた、教員用コーディネーショントレーニング指導書の作成を荒木秀夫教授に依頼しました。また、高齢者へのコーディネーショントレーニングの普及のため、嘉麻市スポーツ推進委員研修会を実施し、指導力の向上を図りました。また、乳幼児施設への導入率向上のため、未導入施設への働きかけを行い、次年度の導入が決定しました。 ・嘉麻市スポーツ推進委員研修会：1回 ・小学校教員コーディネーショントレーニング研修会：3回			
	次年度重点課題	新型コロナウイルス感染状況を考慮しながら、教員用コーディネーショントレーニング指導書の作成は継続し、更なる乳幼児施設への導入率向上が課題です。			
令和3年度 自己評価	【評価の指標】		A	B	C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)			○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)			○	
	※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)				
評価の根拠	コーディネーショントレーニング指導者研修会開催数、小学校及び中学校のコーディネーショントレーニング導入校数は目標値を達成しました。 乳幼児施設については目標値を下回りましたが、新たに3園の次年度導入が決定しました。 実績値評価はB、課題への取組と成果もB評価としています。				
教育委員会評価		今回	B	前回	—

※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)

主要施策	5	体力及び運動能力向上の推進		
施策の内容	4	競技スポーツの推進		
事業名 (予算/決算)	[47] 競技スポーツ推進事業 (スポーツ推進課：プロジェクトK・スポーツ推進係) (予算：10,028千円 / 決算：3,284千円)			
事業の概要	事業の目的	誰もが自らを目標に即してスポーツ競技力を伸ばそうとするスポーツ文化を広めるとともに、小・中・高校生からの優れた体力・運動能力、さらには運動学習力、潜在的能力を豊かに伸ばしていくことを目的とします。		
	事業の内容	トップアスリートによる教室を開催するなど、子どもたちの競技スポーツへの関心を深め、ジュニア期からの育成に取組みます。また、指導者向けの研修を開催し、競技力向上及び人材育成、発掘に取組みます。		
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	未体験の競技体験会開催数：2回 競技スポーツ教室開催数：2回 スポーツ指導者等研修会開催数：3回		
	実績値 (目標値との比較)	未体験の競技体験会開催数：0回 競技スポーツ教室開催数：0回 スポーツ指導者等研修会開催数：4回		
	重点課題	競技スポーツ教室についてはバドミントン教室を予定していますが、新型コロナウイルス感染拡大の状況を見極めながら、イベントの安全性などを十分に考慮し企画します。		
	課題への取組と成果	新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言や、まん延防止等重点措置が発令され、感染拡大防止のため、未体験の競技体験会、トップアスリートによる競技スポーツ教室は中止となりましたが、スポーツ推進課職員による、スポーツ指導者等研修会を実施しました。 ・トップアスリートによるラグビー教室：0回 ・トップアスリートによるバドミントン教室：0回 ・嘉麻市スポーツ推進委員研修会：1回 ・小学校教員コーディネーショントレーニング研修会：3回		
	次年度重点課題	新型コロナウイルス感染状況を考慮しながらトップアスリートによる教室・体験会の実施及びスポーツ指導者等に対する研修会による指導力の向上が課題です。		
令和3年度 自己評価	【評価の指標】	A B C		
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)			
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)			
	※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（ 基準 ） C：課題あり（低い）			
評価の根拠	スポーツ指導者等研修会開催数は目標値を上回りましたが、未体験の競技体験会開催数や競技スポーツ教室開催数が目標値を下回っているため実績値評価はCであります。しかし、当初予定していた教室・体験会は、新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言や、まん延防止等重点措置が発令され、講師の派遣が不可能となったため、やむを得ず中止となったものであり、課題への取組と成果はB評価としています。			
教育委員会評価	今回	B	前回	—

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（**基準**） C：課題あり（低い）

主要施策	6	人権尊重精神を育成する教育の推進			
施策の内容	1	学校教育における人権・同和教育の推進及び支援			
事業名 (予算/決算)	[48] 人権・同和教育推進事業 (学校教育課：教務係) (予算： - / 決算： -)				
事業の概要	事業の目的	福岡県人権教育・啓発基本指針及び嘉麻市人権教育・啓発基本指針に基づき、学校教育活動全体を通して、児童生徒が共生の心を身につけるとともに、自分らしさや能力を十分に発揮し、人権問題を主体的に解決していく力を身につけることができるよう指導していきます。			
	事業の内容	学校における人権・同和教育の指導の充実を図ります。			
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	学校での教職員等の研修 (校内研修)：2回 人権・同和教育研修会の実施 (市全域)：1回			
	実績値 (目標値との比較)	学校での教職員等の研修 (校内研修)：2回 (全13校で実施) 人権・同和教育研修会の実施 (市全域)：1回 (全13校で実施)			
	重点課題	今後も、教職員の人権問題、同和問題に対する認識を深め、すべての人の基本的人権を尊重する教育活動を推進することができるよう、全教職員を対象にした研修会を実施します。また、教科や領域の中で児童生徒の人権意識が高まるような授業づくりを推進します。			
	課題への取組と成果	学校での人権・同和教育全体計画は、人権が尊重される「学習活動づくり」「人間関係づくり」「環境づくり」の3つの視点を踏まえて作成されている。 学校での教職員等の研修 (校内研修) は、校内研修計画に沿って実施されています。 人権・部落問題の解消に向けた教職員の認識を深めるための人権・同和教育研修会 (全職員対象) は、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施できませんでしたが、本年度は、オンデマンド形式で実施しました。			
次年度重点課題	若年教員の人権問題、同和問題に対する認識を深めるための研修会の実施を進める必要があります。				
令和3年度 自己評価	【評価の指標】		A	B	C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)			○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)			○	
	※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)				
評価の根拠	学校での教職員等の研修 (校内研修) は、全ての学校で2回以上実施されています。 人権・同和教育研修会 (全職員対象) は、8月にオンデマンド形式で実施しました。				
教育委員会評価		今回	B	前回	—

※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)

主要施策	6	人権尊重精神を育成する教育の推進		
施策の内容	2	社会教育における人権・同和教育の推進及び支援		
事業名 (予算/決算)	[49] 人権・同和教育推進事業（生涯学習課：人権・同和教育係） (予算：1,392千円 / 決算：837千円)			
事業の概要	事業の目的	部落問題をはじめ女性、子ども、高齢者、障がい者、アイヌの人々、外国人、HIV感染者、性的少数者等に対する人権課題を解決し、人権尊重社会の実現に向け、嘉麻市人権教育・啓発基本方針に基づき、社会教育における人権・同和教育を一層推進するとともに、市内の各種団体等の協力を得ながら、行政区単位地域研修会、団体・サークル等研修会、企業内人権・部落問題研修会を実施します。また、関係行政機関及び地域活動指導員（人権・同和教育指導員）との連携を行い、社会教育における人権に関する学習を推進します。		
	事業の内容	嘉麻市の人権・同和教育の推進を図るため、市内各行政区をはじめ、団体・サークル等、企業や市職員の人権・部落問題研修会を実施し、人権・部落問題に関する意識の向上を図っています。		
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	地域等での人権・部落問題研修会開催数：26回 事業主人権・部落問題研修会参加事業所数：86事業所		
	実績値 (目標値との比較)	地域等での人権・部落問題研修会開催数：21回（コロナ禍のため中止5回） 事業主人権・部落問題研修会参加事業所数：49事業所		
	重点課題	コロナ禍における研修会ではありますが、開催検討を促すような働きかけや社会状況に応じた人権教育・啓発の検討が必要です。また、部落問題をはじめ様々な人権問題の研修内容等の工夫と学習機会の充実を図る必要があります。		
	課題への取組と成果	人権ビデオ視聴後、ビデオ内容の振り返りを行う研修資料（パワーポイント）を作成するなど、学習内容の工夫を行ったことで、人権問題についての理解が深まり、日常生活においても差別への気づきに繋がっています。公民館分館事業である「ときめき学習」がコロナ禍で中止となるものもあり、子どもたちへの人権学習の機会が減った形となりました。小・中学校へのゲストティーチャー等としての参加ができず、人権学習が未実施となっています。事業主人権・部落問題研修会においては、コロナ禍の影響で研修会が延期になったことも影響し、参加事業所数が少なくなる形となりました。全体的にコロナ禍における研修会は、開催依頼を受けるも、感染状況で中止の判断せざるを得ないものが引き続き多くありました。令和3年度も、人権感覚を高める機会と場の提供が難しい状況であったため、「人権パネル」展を開催し、機会と場の提供を、確保しました。		
次年度重点課題	地域社会のひとつの単位である多くの行政区で生活の中にある人権について考えていこうという意識の醸成が図られ、学習の場を設けてもらえるよう働きかける必要があります。各審議会等においても、人権・部落問題研修会の開催を促す必要があります。社会状況に応じた個別の人権課題及び地域のニーズに合った研修内容となるよう工夫改善に努める必要があります。			
令和3年度 自己評価	【評価の指標】	A B C		
	実績値評価（当該年度の目標値に対する達成度・進捗度）		○	
	課題への取組と成果（当該年度の取組における成果・効果）		○	
※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（基準） C：課題あり（低い）				
評価の根拠	コロナ禍において、感染拡大等により、研修会開催が難しい状況の中、人権感覚を高める機会と場の提供を確保するため、人権パネル展を実施し、市民の人権意識の向上に繋がったと捉え、B評価としています。			
教育委員会評価	今回	B	前回	—

※評価の指標 A：期待以上（高い） B：概ね期待どおり（基準） C：課題あり（低い）

主要施策	6	人権尊重精神を育成する教育の推進			
施策の内容	2	社会教育における人権・同和教育の推進及び支援			
事業名 (予算/決算)	[50] 人権・同和教育推進少年団体育成事業事業 (生涯学習課：人権・同和教育係) (予算：3,000千円 / 決算：3,000千円)				
事業の概要	事業の目的	人権感覚の涵養と差別をなくしていこうとする子どもの育成を図るため、解放子ども会を支援し、解放子ども会に参加する一人ひとりが、人権・部落問題について正しい認識と理解を深める活動を推進します。			
	事業の内容	部落差別をはじめ、あらゆる差別をなくすことを主たる目的として活動する団体が企画運営する解放子ども会事業に、嘉麻市解放子ども会事業補助金交付規程に基づき補助金を交付します。 学習活動を学校と協議、連携し支援しています。			
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	解放子ども会運営委員会開催回数：2回以上			
	実績値 (目標値との比較)	解放子ども会運営委員会開催回数：2回			
	重点課題	子どもたちの部落問題学習が深まる活動となるよう、関係団体や小・中学校とより一層緊密な連携を図り、事業展開を構築していく必要があります。			
	課題への取組と成果	事業展開については、小・中学校と協力しながら、子どもたちの部落問題をはじめ、あらゆる人権についての正しい認識と理解が深まる活動となるよう、支援を行うことで、差別に立ち向かえる子どもの育成を図ることができました。			
次年度重点課題	補助事業の目的及び内容となっているか、注視し、また事業展開が子どもたちの部落問題学習の深まりとなっているか、継続支援を行う必要があります。				
令和3年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C	
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○		
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○		
	※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)				
評価の根拠	関係団体等と事業展開の情報共有を常に図っております。また、小・中学校と連携し、子どもたちの部落問題学習が深まる活動となるよう学習計画立案の段階から協議の場を設けました。さらに、学習の場においては、指導者の補助的役割や子ども達の自主性・主体性が育めるように導く等、活動に対して助言等を行い、効果・効率性の向上を図ったと捉え、B評価としています。				
教育委員会評価		今回	B	前回	—

※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)

主要施策	6	人権尊重精神を育成する教育の推進			
施策の内容	2	社会教育における人権・同和教育の推進及び支援			
事業名 (予算/決算)	[51] 人権・同和教育推進団体育成事業 (生涯学習課：人権・同和教育係) (予算：1, 544千円 / 決算：952千円)				
事業の概要	事業の目的	解放学級及び日常生活で文字の読み書きに不自由している人々を対象にした識字学級を開催し、学級生一人ひとりが、人権・部落問題について更なる正しい認識と理解を深める学習や学級活動を推進します。			
	事業の内容	稲築・碓井・嘉穂地区において、解放学級を開催し、人権・部落問題についての学習を行うとともに、碓井地区においては、識字学級を開催することにより文字の読み書き学習を支援しています。			
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	解放学級数：7学級 識字学級：1学級			
	実績値 (目標値との比較)	解放学級数：5学級 識字学級：1学級			
	重点課題	コロナ禍において人権学習が寸断されることなく、学習の機会を持つとする意識になれるよう働きかけ、学習活動を引続き支援していく必要があります。			
	課題への取組と成果	地域住民の自主的・主体的な学習活動を学校と協力してサポートすることにより、学級生一人ひとりが、人権問題について更なる正しい認識と理解をより深め、継続して学びの場となっています。コロナ禍が続いていますが、7学級中5学級が開講(年度途中)しました。しかし、開・閉講式は新型コロナ感染拡大防止対策により中止となりました。人権・同和教育指導員が学びの継続に繋がるよう本年度も「学級だより」を発行、休講の学級生に配布しました。様々な教材を活用し、学級生それぞれが学習内容を深めることができるよう支援を行い、またコロナ禍においても、学習の場と機会の確保を図ることができました。そのことが、日常生活に即した学びに繋がっています。			
次年度重点課題	学級生の自主的・主体的な学習活動を引続き支援する必要があります。学習内容の工夫・充実を図る必要があります。学びの継続となるよう、学習の機会を持つとする意識になるよう働きかける必要があります。文字を獲得することで、生きることへの自信や喜びに繋がるよう継続して支援することが必要です。				
令和3年度 自己評価	【評価の指標】		A	B	C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)			○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)			○	
	※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)				
評価の根拠	目標値である学級数は昨年度からの変動はありませんでしたが、このコロナ禍において、解放学級5学級、識字学級のみ開講となり、自主的・主体的な学習活動の継続が難しい1年でした。しかし、学びの継続に繋がるよう「学級だより」を発行し、休講の学級生へ配付しました。そのことで、学級生一人ひとりが人権・部落問題について更なる正しい認識と理解が深まる活動になったと捉えています。また、識字学級においては、コロナ禍における感染状況に応じて学習の場と機会の確保を図り、さらに様々な教材を活用することで、学級生それぞれが学習内容を深めることができたことと捉え、B評価としています。				
教育委員会評価		今回	B	前回	—

※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)

主要施策	7	市民文化の創造
施策の内容	1	美術に関する創造的活動の推進
事業名 (予算/決算)	[52] 文化芸術活動推進事業 (生涯学習課：美術館係) (予算：一千円 / 決算：一千円)	
事業の概要	事業の目的	関係団体が主体的、自主的に創作、展示を行えるよう支援を行います。 児童や生徒などの作品鑑賞や創作活動の支援を行います。
	事業の内容	関係団体と連携し市民の展示活動やアトリエでの創作活動の支援、学校と連携し児童生徒の作品鑑賞、出前学習や地域と連携し子どもたちの創作活動などを支援します。
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	展示室5貸館入館者数及び利用団体数：6,800人及び10団体 美術館を活用した学校数：5校(延7校) 地域等での活動支援回数：9回
	実績値 (目標値との比較)	展示室5貸館入館者数及び利用団体数：1,545人及び7団体 美術館を活用した学校数：0校 地域等での活動支援回数：7回
	重点課題	学校や地域と連携し新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を取りながら、子どもたちの芸術鑑賞や創作活動を支援します。
	課題への取組と成果	・福岡県児童画展嘉麻市展は中止となり、作品鑑賞で来館したのは鴨生保育園のみでしたが、稲築東中学校3年生に対し出前学習を行い、美術館の紹介、アートカードでの鑑賞ゲームや織田廣喜の代表作「讃歌」の紹介、解説を行いました。 ・稲築、碓井、嘉穂、山田地区公民館(分館含む)での夏・冬休みのときめき学習に出向き、創作活動を支援しました。 夏休み6回：沖縄シーサー作り 冬休み1回：ミニ門松作り ・コロナの影響は大きいですが、出前学習や地域での創作活動支援ができました。
	次年度重点課題	教育アクションプランに基づき文化芸術活動推進事業を実施していくため、指定管理者に情報を提供し、支援していく必要があります。
令和3年度 自己評価	【評価の指標】	A B C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	○
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)	○
	※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)	
評価の根拠	<p>コロナのため展示室5の貸館利用が中止となり利用者減となりましたが筑豊地区中学校や県高等学校文化祭、県障がい児者、小児がんの子どもたちの作品、近畿大学との連携事業(アートキッズ)の作品展を開催でき、多くの児童生徒などが来館しました。</p> <p>児童の作品鑑賞授業は行われませんでしたでしたが、稲築東中学校に出向き、美術館、織田廣喜及び作品の魅力などについて伝えることができました。</p> <p>地域では地区公民館と連携し、沖縄戦やシーサーについて学び、シーサーを作り沖縄の歴史や文化についてや、正月の伝統行事についての学びを深めることができました。</p>	
教育委員会評価		今回 B 前回 ー

※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)

主要施策	7	市民文化の創造		
施策の内容	1	美術に関する創造的活動の推進		
事業名 (予算/決算)	[53] 美術館運営管理事業 (生涯学習課：美術館係) (予算：40,735千円 / 決算：39,469千円)			
事業の概要	事業の目的	快適で安全な環境の中で芸術作品鑑賞や創作、展示活動ができ、また隣接する公園が憩いの場となるよう維持管理を行い、利用を図ります。 展示収蔵作品の保存、関連資料の収集を行うとともにその活用を図ります。		
	事業の内容	施設設備の保守点検や維持管理、収蔵庫の温湿度管理や燻蒸を行います。 作品の修復、デジタル化に努め、作品の保存と活用を図ります。 サービスの向上と施設の活用を図るため指定管理の導入に着手します。 ホームページやSNSの活用と関係課などと連携し周知を図ります。		
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	入館者数：10,600人 入館者総数：12,300人 展示室5及びアトリエ利用時間数：2,070.0時間		
	実績値 (目標値との比較)	入館者数：4,090人 入館者総数：4,624人 展示室5及びアトリエ利用時間数：1,345.5時間		
	重点課題	令和4年度の指定管理者導入に向け業務を進めます。		
	課題への取組と成果	<ul style="list-style-type: none"> 指定管理者導入に関し教育委員会協議後、美術館運営協議会で指定管理業務仕様書を検討し意見集約を行いました。 指定管理者導入に向け事務処理を行い指定管理者の公募を行いました。 施設指定管理者審査会による指定管理者候補者の選考、議会での議決後指定管理者と協定書を締結しました。 令和4年4月1日より5年間、美術館の管理運営を指定管理者に委託します。 		
次年度重点課題	管理運営が円滑に進むよう進捗状況の管理を行いながら、指定管理者と協働的に運営管理を行う必要があります。			
令和3年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)			○
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○	
	※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)			
評価の根拠	<p>コロナ禍により展示室5の利用減、会期短縮などにより施設の入館者、利用者は目標値には達していませんが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底し昨年中止した「特別企画展」を開催しました。「展示室5」の利用も昨年と比べ増え、入館者も増加しています。</p> <p>施設の管理運営は、図書館や併設する碓井郷土館・平和祈念館 (管理のみ) とあわせて指定管理者を導入しました。今後は新たな事業展開と住民サービスの向上、今まで以上に美術館と図書館が連携した事業展開が期待できます。</p>			
教育委員会評価	今回	B	前回	—

※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (**基準**) C：課題あり (低い)

主要施策	7	市民文化の創造		
施策の内容	1	美術に関する創造的活動の推進		
事業名 (予算/決算)	[54] 企画展事業 (生涯学習課：美術館係) (予算：6,457千円 / 決算：6,334千円)			
事業の概要	事業の目的	織田廣喜など郷土ゆかりの作家など様々な芸術作品鑑賞の機会を提供し、芸術への興味と関心を深め、豊かな感受性を培うとともに嘉麻市の観光資源としての役割を担います。		
	事業の内容	特別企画展や館蔵品展など優れた芸術作品を公開し、関連事業を行い集客を図ります。 チラシやポスター、ホームページやSNS、マスコミなどを活用し、幅広く周知を図ります。		
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	特別企画展入館者数：2,700人 企画展入館者数：160人		
	実績値 (目標値との比較)	特別企画展入館者数：1,726人 企画展入館者数：215人		
	重点課題	ホームページやソーシャルネットワークなどを活用し、美術館と事業の周知に努めます。		
	課題への取組と成果	<ul style="list-style-type: none"> ポスターやチラシ、ホームページや広報、美術館のSNS、新聞などを活用し、幅広く「中原淳一展」と「県展筑豊展」の周知活動を行いました。 「中原淳一展」では、販売グッズの情報を毎日、美術館のツイッターやインスタグラムで紹介するなど、事業の周知に努めました。また、図書館係と連携し中原淳一関連書籍の特設コーナーや中原利加子講演会を計画しました。 コレクション展はホームページやSNSの他にアプリ「ポケット学芸員」によりどこにいてもコレクション展の鑑賞ができるようにしています。 コロナの影響は大きいですが、様々な手段で周知を行い、県内外からも来館者があり美術館(織田廣喜)と企画展事業の周知ができました。 		
次年度重点課題	指定管理者と協働的に教育アクションプランに基づく企画展事業を実施していく必要があります。			
令和3年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)			○
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○	
	※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)			
評価の根拠	<p>特別企画展「中原淳一展」は会期が短縮となりましたが、ホームページやソーシャルネットワークなどでの周知活動により、再注文したグッズも売り切れるなど好評で、あわせて常設展を見学する人も多く、織田廣喜についても広く周知ができました。2年ぶりの開催となった「県展筑豊展」については、合評会は中止となりましたが、前回同様、多くの来館者がありました。</p> <p>企画展「春のコレクション展」についても会期短縮となりましたが、美術館の25年の歩みを振り返り、また日頃鑑賞できない収蔵作品や美術館の魅力を伝えることができ、リピーターが期待できます。</p>			
教育委員会評価	今回	B	前回	—

※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)

主要施策	7	市民文化の創造		
施策の内容	1	美術に関する創造的活動の推進		
事業名 (予算/決算)	[55] 美術教育普及事業 (生涯学習課：美術館係) (予算：214千円 / 決算：87千円)			
事業の概要	事業の目的	学び合い、芸術への興味と関心を深め、親しむ学習機会を提供します。 子どもたちに豊かな感性と想像力などを培う機会を提供します。 ボランティアとして美術館事業に関わる機会を提供します。		
	事業の内容	市民アトリエなどを活用し、専門家などの指導による大人、子ども対象の美術講座などを開催します。 ボランティアの活動として子どもたちの創作活動、学びを支援します。		
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	講座実施日数 (講座数)：21日 (4講座) 延べ受講者数：300人 ボランティア登録者数：7人		
	実績値 (目標値との比較)	講座実施日数 (講座数)：5日 (1講座) 延べ受講者数：68人 ボランティア登録者数：7人		
	重点課題	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底しながら講座を計画し開催します。		
	課題への取組と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・講座日程や募集定員などを見直し、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底し大人、子ども向けの講座を計画しました。 ・児童向けとしてアートキッズ (全7回) …作品展開催 ※近畿大連携事業では「キリンの巣箱」と「喋る録音装置」を作成 ・なつやすみおだびアートラボ (2日間午前・午後) …中止 ・大人の学塾「カリグラフィー講座 (全3回) …次年度へ ・緊急事態宣言、まん延防止の中、アートキッズを開講できました。なつやすみおだびアートは中止しましたが、資料を申込児童に配布しました。内容は動画で一般配信にしたため、誰もが学習できました。 		
	次年度重点課題	指定管理者と協働的に教育アクションプランに基づく教育普及事業を実施していく必要があります。		
令和3年度 自己評価	【評価の指標】	A B C		
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	○		
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)	○		
	※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)			
評価の根拠	<p>緊急事態宣言、まん延防止により講座「アートキッズ」のみの開講となりましたが、基本的な新型コロナウイルス感染症対策以外に募集人数の見直し、日程、内容を変更、受講時のグループ分けや会場を館内市民アトリエのみでなく、展示室5や碓井住民センターを使用するなど感染症拡大防止対策を徹底し実施しました。子どもたちは安心して創作活動を楽しむことができました。</p> <p>なつやすみおだびアートは、中止となりましたが、内容を動画化し一般配信することにより申込児童以外も活用することができました。</p>			
教育委員会評価	今回	B	前回	—

※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (**基準**) C：課題あり (低い)

主要施策	7	市民文化の創造		
施策の内容	2	文化財の保護・継承・活用		
事業名 (予算/決算)	[56] 郷土の歴史文化を守る事業 (生涯学習課：文化財係) (予算：8,482千円 / 決算：7,893千円)			
事業の概要	事業の目的	市内に残る多様な文化財を郷土の「たから」として後世に伝え、適切な活用が図れるように、文化財の保護管理に努めることを目的とします。		
	事業の内容	文化財保護審議会の運営、指定文化財等の維持管理、埋蔵文化財の事前審査、その他さまざまな文化財の調査・研究などを行います。		
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	文化財保護審議会の開催：2回 未指定文化財等の現況確認調査件数：2件		
	実績値 (目標値との比較)	文化財保護審議会の開催：2回 未指定文化財等の現況確認調査件数：2件		
	重点課題	松岡氏庭園等の管理活用について、地元と協議しながら方向性を定め ます。		
	課題への 取組と成果	地元で保存検討会を結成してもらい、保存協議の場を設けましたが、コ ロナ禍の影響で会議が当初の予定よりも開催することができず、課題解決 は次年度へ持ち越しとなりました。また、ソフトバンクのインターシップ 事業において、全国から選抜された6人の学生が松岡氏庭園等の保存活用 にかかる地域課題に取組み、オンライン開催という制限がある中で一定の 成果を挙げることができました。		
次年度 重点課題	地元との協議を進め、リブアーチ型石橋の文化財指定を行います。			
令和3年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)			○
	※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)			
評価の根拠	嘉麻市文化財保護審議会は11月と3月に開催しました。未指定文化財 の調査は、桑野地区リブアーチ型石橋の歴史的評価にかかる文献調査及び 松岡家文書の所在確認調査を実施しました。また、石橋に関連する調査の 中で、石橋の石材を切り出したと考えられる花崗岩石切場跡を新たに確認 するなどの大きな成果も得ることができました。			
教育委員会評価	今回	B	前回	—

※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)

主要施策	7	市民文化の創造
施策の内容	2	文化財の保護・継承・活用
事業名 (予算/決算)	[57] 郷土の歴史文化を伝える事業 (生涯学習課：文化財係) (予算：4,172千円 / 決算：4,121千円)	
事業の概要	事業の目的	市内に残る多様な文化財の活用を図り、郷土への誇りと愛着を培うと共に、郷土の歴史・文化のPRに努めることを目的とします。
	事業の内容	指定文化財の公開・活用、講座、企画展等の教育普及事業を行います。

令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	沖出古墳特別公開事業参加者数：250人 学習支援・視察研修等への対応件数：18件 「語り伝える 戦争の話」参加者数：35人
	実績値 (目標値との比較)	沖出古墳特別公開事業参加者数：164人 学習支援・視察研修等への対応件数：12件 「語り伝える 戦争の話」参加者数：17人
	重点課題	文化財ボランティアサークル活動の充実を図ります。
	課題への取組と成果	コロナ禍の影響で当初の予定よりも、サークル活動は制限されましたが、オンライン会議を取り入れるなど例会4回、現地視察研修1回を行うことができました。これまでの研修成果としては、沖出古墳特別公開事業において、新たに2名の会員がガイドとしてデビューすることができました。また、「You Tube」の文化財教育普及動画の製作で、アニメーションのアフレコにも挑戦するなど、多彩な活動を行いました。
次年度重点課題	ポストコロナ社会を踏まえて「You Tube」動画の充実を図ります。	

令和3年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)		○	
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)	○		
	※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)			
評価の根拠	コロナ禍による影響でアクションプラン目標値を達成することはできませんでしたが、各イベントの中止は行わず、新型コロナウイルス拡大防止策を適切に取りながら、目標値の5割以上を達成することができました。また、文化財係公式「You Tube」を新たに立ち上げ、イベントや文化財教育普及動画のオンライン配信にも取組みました。			

教育委員会評価	今回	A	前回	—
----------------	----	---	----	---

※評価の指標 A：期待以上 (高い) B：概ね期待どおり (基準) C：課題あり (低い)

主要施策	7	市民文化の創造		
施策の内容	2	文化財の保護・継承・活用		
事業名 (予算/決算)	[58] 郷土の歴史文化拠点施設活用事業 (生涯学習課：文化財係) (予算：9,627千円 / 決算：9,317千円)			
事業の概要	事業の目的	効率的な施設運営を図りながら、学校教育及び社会教育に資すると共に郷土の歴史・文化のPRに貢献することを目的とします。		
	事業の内容	歴史民俗資料展示・保管施設(4館1室)の維持管理に努めると共に収蔵資料の台帳整備を行い、資料の活用を進めます。		
令和3年度 取組と成果	目標値 (主要な指標)	収蔵資料台帳整備件数：240件 常設展示替え/出張展示等の回数：3回		
	実績値 (目標値との比較)	収蔵資料の台帳整備件数：663件 常設展示替え/出張展示等の回数：3回		
	重点課題	嘉穂ふるさと交流館の代替施設の検討を行います。		
	課題への取組と成果	嘉穂ふるさと交流館収蔵資料の移転が支障なく進められるよう、収蔵資料の台帳整備に取組みました。また、現在、利用している収蔵スペースから、代替施設に必要な床面積等を算定すると共に、他の歴史民俗資料展示・保管施設の管理・運営体制を踏まえ、全体の事務効率化が図れるよう代替施設についての方針を定めることができました。		
次年度重点課題	碓井平和祈念館収蔵の人権資料の利活用を図ります。			
令和3年度 自己評価	【評価の指標】	A	B	C
	実績値評価 (当該年度の目標値に対する達成度・進捗度)	○		
	課題への取組と成果 (当該年度の取組における成果・効果)		○	
	※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)			
評価の根拠	前年度の評価委員の意見を踏まえ、文化財専門職員(会計年度任用職員)を新たに任用し収蔵資料台帳整備への取組を強化したことで、大幅に収蔵資料台帳の整備が進みました。また、現在、一般利用を中止している嘉穂ふるさと交流館の収蔵資料を活用するために、碓井図書館において出張展示を行ったり、「昔のくらし」の道具を紹介する「You Tube」動画配信にも取組みました。			
教育委員会評価	今回	A	前回	—

※評価の指標 A：期待以上(高い) B：概ね期待どおり(基準) C：課題あり(低い)

福岡県立大学 看護学部
准教授 原田 直樹

■主要施策1 少人数指導等による学力向上

主要施策1の各事業について、ほぼ目標値に近い達成率を示しており、概ね順調な事業実施状況にあると判断する。

とりわけ、確かな学力の向上のために、学力テストのデータに基づいた集団と個別双方への学習指導や嘉麻市学力向上強化プロジェクトの実施等は評価できる。さらに土曜未来塾をオンライン形式で実施するための実証実験に取り組む等、ウィズ・コロナ/ポスト・コロナ時代に向けた持続可能な取組への模索も評価すべき事項と考える。

土曜未来塾への参加について生活困窮世帯との関連からの分析がなされているが、今後は、参加阻害要因について他の要素も視野に入れ、さらに検証を深めることを期待する。

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

主要施策2の各事業について、一部で目標値を超える達成率を示しており、順調な事業実施状況にあると判断する。

安心して学べる学校づくりのため、学校支援専門員や地域学校安全推進員を配置する等の取組によって、巡回や見守りの活動にとどまらず、学校の生徒指導委員会への参画や日常的な教員からの電話相談等に応じる等の幅広い学校支援活動は評価できる。

しかし、学校数や学校が抱える諸課題の状況に照らして、各2名ずつの配置では絶対的なマンパワーの不足は否めない。ボランティアを含め、地域で学校安全を支える取組が必要と考える。

■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

主要施策3の各事業について、コロナ禍による制限により、一部で目標値に届かない実施状況も見られるが、概ね順調な事業実施状況にあると判断する。

ただし、教育の機会均等の促進のための奨学金事業については、新規貸し付け者数が目標の半数にとどまっていることから、さらなる広報活動の展開が必要と考える。しかしながら、この新規貸し付け者数の減少の背景に他の公的な奨学支援制度があるとするならば、本市の奨学金事業を含む公的奨学金制度の全体的な受給状況について把握・分析し、必要に応じて事業の見直しを検討することも求められる。

また、いじめ・不登校問題等の解決に向けた体制の充実について、適応指導教室(れすとびあ)や各学校でのきめ細やかな支援体制は評価できる。しかし、国・県と同様に本市の不登校児童生徒出現率は近年増加傾向にあり、児童生徒の学校に登校する以外の社会的自立に向けた取組の検討や、市または中学校区ごとに、より地域性に適合した不登校支援の取組の検討が求められると考える。

■主要施策4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

主要施策4の各事業について、一部で目標値に届かない実施状況も見られるが、そのすべてはコロナ禍の実施制限によるものであり、この状況下にあっては順調な事業実施状況にあると判断する。

学習機会の提供及び学習成果の活用促進のための社会教育施設整備事業では、研修会をオンライン形式で実施する等、コロナ禍における事業取組への工夫は評価できる。

本市の地域住民の生涯学習を支える取組においては、他地域にも共通して見られるが、主要な担い手の高齢化、固定化、後継者不足という課題を有しており、これらの課題解決に向けた具体的な検討と地域へのアプローチが必要であると考えられる。

■主要施策5 体力及び運動能力向上の推進

主要施策5の各事業について、目標値に届かない実施状況も見られるが、そのすべてはコロナ禍の実施制限によるものであり、順調な事業実施状況にあると判断する。

うち、スポーツによる地域の活性化に向けた、スポーツコミュニティ創造事業では、コロナ禍にも関わらず、リズム体操教室等の出前講座での参加者と参加団体が目標値を超えたことは評価に値する。

今後は、本事業の目的でもある市民の主体的なスポーツ活動促進のため、市民の主体形成について、ウィズ・コロナ/ポスト・コロナを踏まえた新たな取組の検討を期待する。

■主要施策6 人権尊重精神を育成する教育の推進

主要施策6の各事業について、一部で目標値に届かない実施状況も見られるが、そのすべてはコロナ禍の実施制限によるものであり、順調な事業実施状況にあると判断する。

社会教育における人権・同和教育の推進及び支援に向けて、解放学級と識字学級の実施を継続していること、コロナ禍で学ぶ意欲が寸断されないようにする取組は評価すべき事項と考える。

現在、識字学級には高齢者だけでなく、中年層や外国籍の学級生が所属してい

るとのことであり、今後も市民の学ぶ意欲を広く保障する方策の一助となるべく、本事業が継続されることを期待する。

■主要施策 7 市民文化の創造

主要施策 7 の各事業について、一部で目標値に届かない実施状況も見られるが、そのすべてはコロナ禍の実施制限によるものであり、順調な事業実施状況にあると判断する。

うち、文化財の保護・継承・活用に向けた、郷土の歴史文化拠点施設活用事業では、前年度の点検評価委員会の意見から早急に文化財専門職員を配置し、これにより収蔵資料台帳整備件数が目標値を大きく上回ったことは評価に値する。さらに、一般利用が中止されている嘉穂ふるさと交流館の収蔵資料を活用するために、昔のくらしの道具を紹介する YouTube 動画配信に取り組む等、ウィズ・コロナ/ポスト・コロナ時代に向けた新たな取組についても評価できる。

今後は、これらの新たな取組に対する市民の反応や評価について把握・検証を進め、市民のニーズに合った事業展開の検討がなされることを期待する。

【全体所見】

令和 3 年度の嘉麻市の教育施策に関する事業は、第 5 次嘉麻市教育振興基本計画（第 5 次教育アクションプラン）に基づいて、総じて順調な実施状況にあると判断する。

令和 3 年度は、令和 2 年初頭から流行した新型コロナウイルス感染症の罹患者数が爆発的に増加した年であった。この状況は本市のみならず、全国の教育行政を危機的な状況に陥れた。一方、その中であって、学校をはじめとした教育の現場では ICT 機器の具体的利活用が急速に進展し、人に会えないという危機的な状況を打開しようとの取組が進められた年でもあった。

本市においても、令和 3 年度の教育委員会の各事業は、コロナ禍の影響により当初の目標値を達成できていない項目が散見された。しかし、研修会のオンデマンド形式による実施、YouTube 動画への取組等、教育委員会職員をはじめとした関係者の ICT 利活用による創意工夫が見られたところは、大きく評価できるものである。創意工夫を生み出す柔軟な思考力は、教育の空白化を防ぐために重要である。ウィズ・コロナ/ポスト・コロナ社会を迎えるにあたって、人々は体験した ICT 利活用の利便性を手放すことはない。感染回避としての目的だけではなく、さらに教育の効率性や効果性を高めるツールとして、より柔軟な発想のもとで ICT の積極的な利活用推進が求められる。

他方、令和 3 年度事業の点検において、すでに各課から報告された課題に加え、

評価委員により指摘された課題等もいくつかあり、今後、これらの課題解決に向けた具体的方策を検討・実行していくことが求められる。とりわけ、児童生徒にとっての安心・安全な学校づくりや不登校児童生徒の社会的自立に関する課題は、早期の検討・対応が求められる。

学校の安心・安全や不登校に関する問題には、地域性が関与している。校区が変わればその様相も一変することは珍しいものではない。それだけに、国・県レベルの画一的な課題解決方法だけではなく、地域性を加味した課題解決方法が必要となる。そのためには、教育委員会だけではなく、市民や地域の関係機関等との有機的な協働体制を構築することで、より効果的な課題方法の検討と実施が可能となる。

今後、教育委員会職員の柔軟な思考力とともに、教育委員会と市民、関係機関等それぞれの力を結集して、取りこぼしのない教育、広く市民の学びに応えることができる教育施策が強く推進されることを期待する。

以上

鹿児島大学 法文学部
准教授 農中 至

■主要施策1 少人数指導等による学力向上

全国的動向に合わせた学力調査を実施しているが（事業2）、それが学力低位層に視点を当てた授業改善を促し、学力低位層の減少に寄与したかどうかは今後検証の余地がある。一定の予算を投入した今回の業者委託テストが真に学力低位層の学力改善に寄与するのかどうか、慎重に検討し、学力低位層の学力保障につながる別の予算措置のあり方が検討されてもよいのではないか。

指摘の本質は、業者テストの実施＝公金の投入が、学力低位層に焦点を当てた授業改善の促進（令和3年度重点課題）に確実に繋がっているとは断定できず、各学校単位、クラス単位、教師個人の日常の努力に負うところが大きいのではないかと判断できるため、学校、クラス、教師の個別の支援方略のために予算を投じること、学力低位層への実際的なアプローチが可能となると思われるというものである。業者テストで把握された客観的な結果とは確かに重要なデータではあるが、業者テストを実施せずとも児童生徒の学力の把握は恐らく可能であり、学校独自の定期テストの結果をもとに、学力低位層へきめ細やかにアプローチしていくこと（学習サポートボランティアなどの適切な人員配置や必要に応じた予算措置）こそ正当な方法なのではないか。本事業では、学校現場における業者テスト結果の活用の実態と効果、便益を冷静に検証する必要もある。

この他、コロナ禍において対応は困難であることが予想されるが、教育課程外の学力向上事業は取り組みを継続し、ターゲット層の「生活困窮家庭の参加率向上」を目指す必要がある（事業3）。「土日の家庭学習時間ゼロ」の取り組みとは、見方によっては、休日の過ごし方に対する行政介入でもあるが、その取り組みを生活困窮家庭当事者の息抜きの場合や家庭生活以外の場となし得れば、当人の長期的な将来展望にもつながるものと思われる。短期的な狙いは「学力向上」であれ、当事者自身が人生を主体的に切り拓くことが目的とされていると考えられ、継続・改善することを期待する。

■主要施策2 個人又は能力を育成する学校教育の充実

評価ヒアリングで検討した「学校防犯体制整備事業」（事業9）については継続してもよいものと思われるが、①学校教職員集団の評価、②養護教諭の評価、③保護者・PTAの評価、④児童生徒による評価など、多様な観点からこの事業・人員配置を質的に評価し、行政、学校、関係機関とその効果と課題について情報共有しておく必要があるのではないか。

本事業は、学校と外部機関との連絡・相談に寄与する仕組みと考えられるが、児童

生徒の個人情報や世帯情報が広域的に共有される可能性もあり、人口規模の小さな自治体では他者による「監視」となるのか「見守り」となるのか、その行き先は曖昧でもある。施策の内容は「安心して学べる学校づくりの推進」であることから、この基本方針から逸脱することのないように引き続き慎重に運用する必要があるものと思われる。

また奨学金事業（事業 20）については、きめ細やかな制度の解説とわかりやすい広報などの工夫が求められるのではないか。制度はあることで意味をなすものではなく、知られ使われてこそ成り立つものである。生活困窮者に対する支援制度は多様化しており、一定のリテラシーがなければ、自らにとって有効な制度を読み解き、活用することが困難な時代になっている。かつてなかった制度が多数出現する現代社会では、きめ細やかな制度解説とわかりやすい広報が欠かせない。奨学金の原資確保と併せて、適切な広報活動も重要であると思われる。

■主要施策 3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

適応指導教室（事業 27）および不登校対策支援（事業 28）ともに、困難が多いなかでできることをできる範囲で実施している。特に後者のようなゼロ予算の取り組みで、ケース共有会議をおこなうことは、たとえ目標値未達成であれ、重要な事業であると評価できる。不登校現象は全国津々浦々みられるものであり、国内では有効な手立てが確立されているとは思われない。不登校対策支援事業の目的である「不登校児童生徒の学校復帰及び社会的自立」という観点は極めて重要であり、学卒後の社会生活も見通そうとしている点は高く評価されてよいと思われる。

適応指導教室事業については、事業目的に「体験学習」が位置付けられ、「社会生活に適応できるための助言、援助」ともあることから、近隣の社会教育施設との連携強化、連携関係の構築が重要であると思われる。子ども期の不登校が問題化される背景の一つに、家庭と学校以外に子ども自身の居場所がないということが挙げられる。学齢期を不登校のまま過ごすことで、長期に渡るひきこもりへの移行も想定されるが、家庭でもなく学校でもない第三の場所を人生の早期に獲得することができていれば、その後の人生に転機が訪れる可能を否定することはできない。嘉麻市には地方都市にはめずらしく美術館もある。「社会生活に適応できる」ことを狙いとし、「体験学習」を重視するならば、地域社会に埋め込まれた社会教育施設との連携・協働は、なにより不登校当事者の人生の確かな地域的支えになり得ることが見込まれる。

最後に、青少年健全育成事業（事業 31）については、市町村合併以前からの事業経緯の説明と広域合併となった嘉麻市特有の地理的事情を踏まえ、その重要性が理解できた。次年度重点課題について引き続き取り組んでもらいたい。なお、本事業が本市においてなにをどのように達成し、どのような成果を残し今日に至っているのかを検証することは、他都市に対しても「青少年健全育成事業」の一つのモデル像を示すことになり得るように思われることから、詳細な事業分析と成果の公開が今後

期待される。

■主要施策4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

社会教育関係団体等育成事業（事業34）、公立公民館・自治公民館連携強化推進事業（事業37）、公民館活動活性化推進事業（事業38）ともに、課題を抱えながらも従前通りの取り組みをおこなっているものと思われる。しかし、「課題への取組と成果」の各欄には、「取組と成果」に関する具体的な記述が乏しく、事業の内実や成果が十分に可視化（職員集団によって分析・考察されたものを言語化）されているとは思われない。このことは、事業自体の前例踏襲がルーティン化していることを示すものともいえ、「障害者の生涯学習の推進について」（文部科学省）、「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について（答申）」（中教審第212号）など、現代の社会教育や公民館に寄せられている期待に十分応えられるものに事業自体がなり得ているとはいえない。これまでの事業の中核的な要素を継続しながら、いかに新たな事業に取り組んでいけるかが公民館と社会教育の場では問われているように思われる。負担の大きい前例踏襲と職務のルーティン化からの脱却が求められており、新しくつくる公民館と人間の創造性を促す社会教育の役割が今日期待されているといえる。

読書活動推進事業（事業40）については、今年度から図書館の指定管理が進められているということから、昨年度事業と今年度事業（予定）の比較が容易ではなく、どのような評価が妥当なのか判断がつかない部分が多い。ヒアリングで得られた回答からは、指定管理者への丸投げ委託にはしないという回答が得られていることから、指定管理者と行政の対等な定期的な意見交換の場が設けられ、指定管理者の困りごとに応える行政の在り方を期待したい。指定管理者の困りごとは、そのまま住民の困りごとである場合も多く、行政直営の場合よりも利用者の本音が職員に対して打ち明けられやすい場合も少なくない。これを好機と捉え、よりよい図書館環境の整備に努めることを期待する。

生涯学習推進事業（事業36）の事業内容は、「①ボランティア人材バンクの活用②内外研修による職員の資質向上」となっている。予算規模が大きい割には、住民への事業を通じた成果還元の道筋がみえづらく、とりわけ②内外研修による職員の資質向上の「内部研修」が「課内研修」の一言にとどまり、その実態がほとんど見えてこない。また、外部研修も「筑豊教育事務所」および「社会教育総合センター」の二か所にとどまり、高等教育機関が提供する遠隔研修（大学公開講座等）の機会、各種オンデマンド教材、YouTube（『月刊公民館チャンネル』）や牧野篤東京大学教授（社会教育・生涯学習）講演録等の学習教材が今日多くあるにもかかわらず、それらが有効に活用された様子はみえない。たとえば高等教育機関の専門家へ研修講師依頼をし、内部研修を充実化していくことは、すべての主要施策の充実化、ひいてはその学び自体が教育行政内部にとどまらず一般行政の行財政制度改革にも寄与する可能性をも有するはずである。市民の学習を下支えし、条件整備を進めることは、生涯学

習課の本分であり、当該課職員自身の力量形成は住民の下支えと条件整備の基本的な前提条件である。職員自身の研修の充実化を抜きに、特に主要施策3から7を動かしていくことはできないはずである。①ボランティア人材バンクの活用については引き続き検討することとし、生涯学習関係職員の資質向上のあり方については早急に見直しを進めていく必要がある。現行の方法では職員の資質向上は見込めない。

■主要施策5 体力及び運動能力向上の推進

「スポーツコミュニティ創造事業」(事業42)の主要ターゲットは高齢者層であると思われる、その層に対する出前講習を実施し、利用者からインフォーマルに肯定評価を得るなど、事業実施の意義は十分理解できる。しかし、事業の内容の「自主的に教室を開催できるような仕組みを形成」という点が、ヒアリングでは十分把握できなかった。出前講座の価値はあると思われるが、真の狙いは住民自身が「自主的に教室を開催できる」ことであるはずであり、この点は参加者数、団体数、教室開催数といった数値的評価とは別に検討の必要がある。すなわち、数値目標として出された成果指標からは本事業の価値が見える化されたといえるが、重要なことは回数や数ではなく、住民の側の意識の変化や住民自身の力量形成の検証である。次年度は本格的に「市民が自主的に地域での活動を行えるよう支援」と重点課題にも明記してあることから、引き続き注視していきたい。

競技スポーツ推進事業(事業47)は、ヒアリングを経て最も事業意図が理解できないものであった。他事業と比較して、予算規模が大きいということも理由の一つである(恐らく事業展開のための人件費も計上されているものと思われるが)。困窮世帯が増加し、かつ少子化の進行する現代社会において、公金を投入し本事業を実施する積極性がどこにあるのか、住民の幸福と福祉に本事業がどう寄与し得るのか、十分に理解することができなかった。事業の内容にある「ジュニア期からの育成」と「指導者向けの研修」を並べた場合、ジュニア期相当の住民は嘉麻市内在住の児童生徒であろうが、指導者には学校教員も多数含まれることが予想され、将来当該地域の住民となる可能性が高いのは確実に前者であろう。「ジュニア期からの育成」と「指導者向けの研修を開催し、競技力向上及び人材育成、発掘」という「事業の内容」から判断するに、ここには二つの方向性があり、一体だれを主要な対象としているのか事業ターゲットが不明確でもある。子ども期への働きかけを強化・拡充し、スポーツ事業を通じて子どもの健全な育成につなげようとするのか、それとも子ども期に働きかける側の成人住民のスポーツ指導能力の育成を目指すだけのものなのか、仮にこのように二側面を有する事業であるとすれば、それぞれ個別の事業として再構想されるべきものではないだろうか。予算規模の大きさが、事業推進人件費予算として計上されていることと関係するとすれば、適切かつ戦略的な人員配置の観点から事業自体の見直しを検討してもよいのではないか。

■主要施策6 人権尊重精神を育成する教育の推進

人権・同和教育推進少年団体育成事業（事業50）、人権・同和教育推進団体育成事業（事業51）の両事業は、嘉麻市において極めて重要な取り組みであると評価する。前者は少子化の進行により、子どもの減少、地区自体の規模縮小など、今後大きな変化が想定されるものであるが、人権意識を高め、人権を守る意識を持つ教育に取り組むことは人間教育の基本でもある。また同和教育のなかで部落差別を正しく学び、差別をなくす（「差別をしない」ではない。）意識を高めていくことは今日なお重要であり、人類の普遍的な課題に迫る営為でもある。後者については、ヒアリングの際に特に識字学級での学習者層の多様化が進んでいるという説明があったが、人権保障という一点において、困難を抱えるあらゆる層の人々を排除することがないよう強く要請したい。差別の現実学ぶことを基本としてきた筑豊の人権・同和教育の歴史的基盤を直視し、人権が守られるまちづくりを目指しながら、差別をなくす教育に引き続き取り組んでもらいたい。なお、両事業には長い歴史があるはずであり、これまでの成果と課題を適切に後世に引き継ぐことが今日求められているように思われる。学習者、関係者、支援者が存命のうちに質的な事業評価に耐える資料の作成が今後進められることを願っている。

■主要施策7 市民文化の創造

文化芸術活動推進事業（事業52）として美術館が活用できるということ自体、独立館を有する嘉麻市固有の特質であり、とりわけ「事業の内容」に「アトリエでの創作活動の支援」が位置づけられていることは高く評価できる。さらに、「出前学習や地域と連携した子どもたちの創作活動などを支援」することが明確に位置づけられていることは、社会教育施設としての美術館の可能性を強く自覚しているものと評価できる。収蔵・展示は美術館の基本的役割であるが作品鑑賞の機会の整備・提供にとどまらないゼロ予算の本取り組みは、地方都市の美術館として他都市にアピールし得る成果でもある。指定管理であることから、行政側からの十分なサポートは不可欠であり、運営の丸投げとならない官民の協力関係構築が重要であると思われる。

また美術教育普及事業（事業55）のアトリエを活用した美術講座、ボランティアによる子どもの創作・学び支援も注目すべき事業である。コロナ禍での困難は見受けられるが、アート活動の動画配信（なつやすみおだびアート）など、美術館における遠隔美術教材の開発にも努めている点は、高く評価すべきである。予算が小規模ななか、講座の中止という逆境をものともしていないようにみえる本館の取り組みは、本市社会教育施設経営において手本とすべきものであるように思われる。

郷土の歴史文化拠点施設活用事業（事業58）は、社会教育施設・領域において会計年度任用職員を配置することで、事業が明らかに改善・前進した稀有な事例の一つといえる。適材適所で必要な人材（専門性を有する人材）を配置することで、局面の打開、新規事業の展開が可能となることを本事業は示しており、社会教育施設・領域における専門家登用の好事例ではないかと思われる。今後も未達成の課題を検証し

ながら、市内社会教育施設の収蔵資料の精査・公開に引き続き尽力してほしい。

【全体所見】

全体的に概ね良好と思われる。ただし、いくつかの点については今後検討の余地がある。各事業への意見・評価を十分吟味し、予算、人員の適正配分に努め、事業内容の見直し、特に職員研修の改善に努めてもらいたい。

嘉麻市教育委員会点検評価実施要綱

[平成21年嘉麻市教育委員会要綱第6号]

[平成23年嘉麻市教育委員会要綱第4号]

[平成24年嘉麻市教育委員会要綱第4号]

[平成26年嘉麻市教育委員会要綱第4号]

[平成26年嘉麻市教育委員会要綱第6号]

[平成27年嘉麻市教育委員会要綱第3号]

[令和2年嘉麻市教育委員会要綱第1号]

[令和4年嘉麻市教育委員会要綱第3号]

(趣旨)

第1条 この要綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第26条及び嘉麻市教育基本条例(平成22年嘉麻市条例第16号。以下「条例」という。)第7条の規定に基づき、嘉麻市教育委員会(以下「教育委員会」という。)が実施する事務の点検及び評価について、必要な事項を定めるものとする。

(点検評価事項)

第2条 教育委員会は、前年度の教育委員会の事務の管理及び執行の状況について、次に掲げる事項の点検及び評価(以下「点検評価」という。)を行う。

- (1) 教育委員会の会議の実施状況等に関すること。
- (2) 教育委員会の主要な施策に関する執行の状況及びその成果に関すること。

(点検評価の方法)

第3条 教育委員会は、点検評価を実施するに当たり、別に定める評価表により教育委員会事務局において、その所管する事務事業等の自己評価を行わせるものとする。

- 2 教育委員会は、前項の自己評価の結果について評価の客観性を確保するため、嘉麻市教育委員会点検評価委員(以下「評価委員」という。)を設置し、意見を求める。
- 3 教育委員会は、評価委員の意見を踏まえ、教育委員会の会議において最終的な点検評価を行う。

(評価委員)

第4条 評価委員は、3人以内とし、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱する。

- (1) 教育に関し、学識経験者を有する者
- (2) その他教育委員会が適当と認める者

第5条 評価委員の任期は3年とし、再任を妨げない。ただし、委員が欠けたときの補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(公表の方法)

第6条 教育委員会は、条例第7条の規定により点検評価の結果に関する報告書は次に

掲げる方法で公表する。

- (1) 嘉麻市公式ホームページに掲載
- (2) 報道機関に提供
- (3) 教育委員会での閲覧
(庶務)

第7条 点検評価の実施に関する庶務は、主幹課において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、点検評価の実施に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則〔平成21年嘉麻市教育委員会要綱第6号〕

この要綱は、平成21年7月8日から施行する。

附 則〔平成23年嘉麻市教育委員会要綱第4号〕

この要綱は、平成23年4月5日から施行する。

附 則〔平成24年嘉麻市教育委員会要綱第4号〕

この要綱は、平成24年4月1日から施行する。

附 則〔平成26年嘉麻市教育委員会要綱第4号〕

この要綱は、平成26年4月1日から施行する。

附 則〔平成26年嘉麻市教育委員会要綱第6号〕

この要綱は、平成26年10月6日から施行する。

附 則〔平成27年嘉麻市教育委員会要綱第3号〕

この要綱は、公表の日から施行し、改正後の嘉麻市教育委員会点検評価実施要綱の規定は、平成27年4月1日から施行する。

附 則〔令和2年嘉麻市教育委員会要綱第1号〕

この要綱は、令和2年6月2日から施行し、改正後の嘉麻市教育委員会点検評価実施要綱の規定は、令和2年4月1日から適用する。

附 則

この要綱は、令和4年5月1日から施行し、改正後の嘉麻市教育委員会点検評価実施要綱の規定は、令和4年4月1日から適用する。

嘉麻市教育委員会点検・評価報告書

(令和3年度事業分)

発行 嘉麻市教育委員会 教育総務課
〒820-0592 福岡県嘉麻市上臼井 446 番地 1
TEL 0948-62-5723

発行年月 令和4年9月